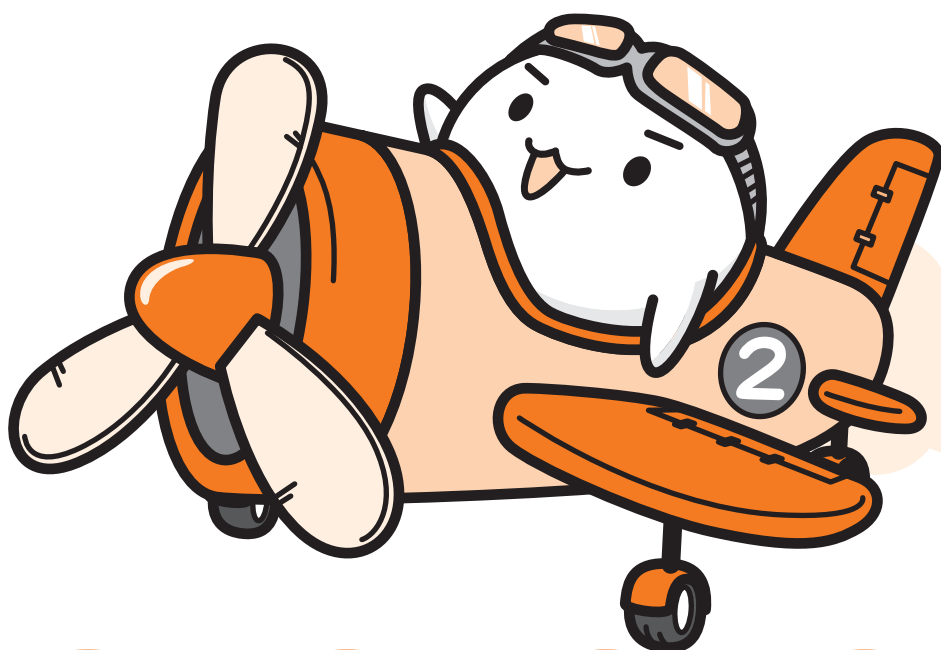
TOSHIBA
Leading Innovation >>>

2 いろいろな機能を使おう
パソコンを使いこなそう

dynabook

この本の読みかた

本書は、次の7つの章と付録で構成されています。
奇数ページの右端と偶数ページの左端には、各章のマークがあります。
マークは章ごとに一段ずつ下げてあるので、目的の章を検索するときにご利用ください。

1章　パソコンの基本操作を覚えよう

パソコンの各部の名前から始まり、パソコン本体に用意されているボタンやスロット、さまざまな機能について説明しています。

2章　ネットワークの世界へ

パソコンを外の世界と結ぶネットワーク。
ネットワークへの接続方法について説明しています。

3章　周辺機器を使って機能を広げよう

パソコン本体に用意されているコネクタにいろいろな機器をつないで、機能を広げることができます。本パソコンにはどんなコネクタが用意されていて、どんな機器が接続できるのかを説明しています。

4章　バッテリ駆動で使う

屋外やテラスなど、電源コンセントがない場所で使用するために、本パソコンにはバッテリ駆動の機能が用意されています。バッテリ駆動で使用するための充電方法や、バッテリの交換手順を説明しています。

5章　システム環境の変更

パソコンのシステム構成を変更するBIOSセットアップの操作方法を説明しています。

6章　パソコンの動作がおかしいときは

なんだか動きがおかしい、故障？と思うようなとき、また使用上困ってしまってどうしようもないときなどのトラブル解消方法を紹介しています。

7章　お問い合わせされるときは

本製品に用意されているアプリケーションなどのお問い合わせ先を掲載しています。

付録

本製品を使用するにあたってのお願いと、技術基準適合、無線LANなどについて記しています。

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』 パソコンで見るマニュアルへの参照の場合…《　》 《パソコンで見るマニュアル（検索）：XXXX》と書いている場合、《パソコンで見るマニュアル》の［キーワード検索］に「XXXX」を入力すると、目的のページを検索できます。 パソコンで見るマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows Vistaです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Vista

特に説明がない場合は、Windows Vista® Home Premium または Windows Vista® Home Basic を示します。

パソコンで見るマニュアル

パソコン上で見ることのできる、電子マニュアル「パソコンで見るマニュアル」を示します。デスクトップ上の［おたすけナビ］アイコンをダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックして起動します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブを示します。

参照 詳細について「1章 4 CDやDVDを使う」

Coreモデル

インテル® Core™ 2 Duo プロセッサーが内蔵されているモデルを示します。

Celeronモデル

インテル® Celeron® プロセッサーが内蔵されているモデルを示します。

FeliCaポート内蔵モデル

FeliCaポートが内蔵されているモデルを示します。

HDMI端子モデル

HDMI出力端子が内蔵されているモデルを示します。

Bluetoothモデル

Bluetooth機能が搭載されているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書をはじめとする取扱説明書では、コントロールパネルの操作方法については、「コントロールパネルホーム」に設定していることを前提に記載しています。「クラシック表示」になっている場合は、「コントロールパネルホーム」に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 コントロールパネルホームとクラシック表示
《パソコンで見るマニュアル（検索）：コントロールパネル》

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Live、Windows Vista、Aero、Excel、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- パーソナルシェルター、かざしてナビ、ATOKは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- シンプルログオン、スクリーンセーバーロック2、パーソナルシェルター、かざしてナビ、かんたん登録2、ATOKは、株式会社ジャストシステムの著作物であり、著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO デュオは、ソニー株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。（SD）
- SDHCロゴは商標です。（SDHC）
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- i.LINK、i.LINKロゴは商標です。
- HDMIおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- LaLaVoice、ConfigFree、おたすけナビは、株式会社東芝の登録商標または商標です。
- 「駅探」は登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- Corel、Corelのロゴ、Ulead、Uleadロゴ、DVD MovieWriterは、Corel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。

- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- McAfee、SiteAdvisorおよびマカフィーは米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- Napster、Napster To Go、Napster Basic、Napster a la carteは、Napster, LLCの商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- Google ツールバー、Google デスクトップはGoogle Inc.の登録商標です。
- FlipBook、FlipViewerはE-Book Systems,Inc.の登録商標です。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- ICOCAは西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
- ㈱パスモ商標利用許諾済　第57号
- ㈱パスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
- 【JR東日本Suica利用承認第18号】
  ※Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
  ※当該商品は、東日本旅客鉄道株式会社が本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。
  ※東日本旅客鉄道株式会社の都合により、予告なくSuicaカードが交換されることがあります。
- FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断は、ソニー株式会社の著作物であり、FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断にかかる著作権、その他の権利はソニー株式会社および各権利者に帰属します。
- 「Near Field Rights Management」、「NFRM」および「カザスチャンネル」は、日本国内におけるフェイスの商標または登録商標です。
- 「Edy（エディ）」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
- 「まいにちがたからもの」は旺文社の登録商標です。
- スカパー！Netてれびはスカパー JSAT株式会社の商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 インテル Centrino® 2 プロセッサー・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino 2 プロセッサー・テクノロジー搭載と呼びます。

- インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー
- モバイル インテル® GM45 Expressチップセット
- インテル® WiFi Link 5100AGN

6 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

7 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

8 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

9 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずし）などは、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ／電源を切る『準備しよう 1章 4 使い終わりと使いはじめ』

10 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows Vista Home Basic搭載のモデルでは、Windows Vista Home Premiumに搭載の一部の機能（Windows Aeroインタフェース、フリップ3Dなど）の機能はご利用になれません。
- Windows標準のシステムツールまたは『準備しよう』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。

- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- 本製品のセキュリティロック・スロットおよび接続するセキュリティケーブルは盗難を抑止するためのものであり、万一発生した盗難事故の被害について、当社は一切の責任を負いません。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピュータを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有償の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について『準備しよう 6章 1 お客様登録の手続き』

11 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、［続行］または［許可］ボタンをクリックしてください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

パソコンの基本操作を覚えよう

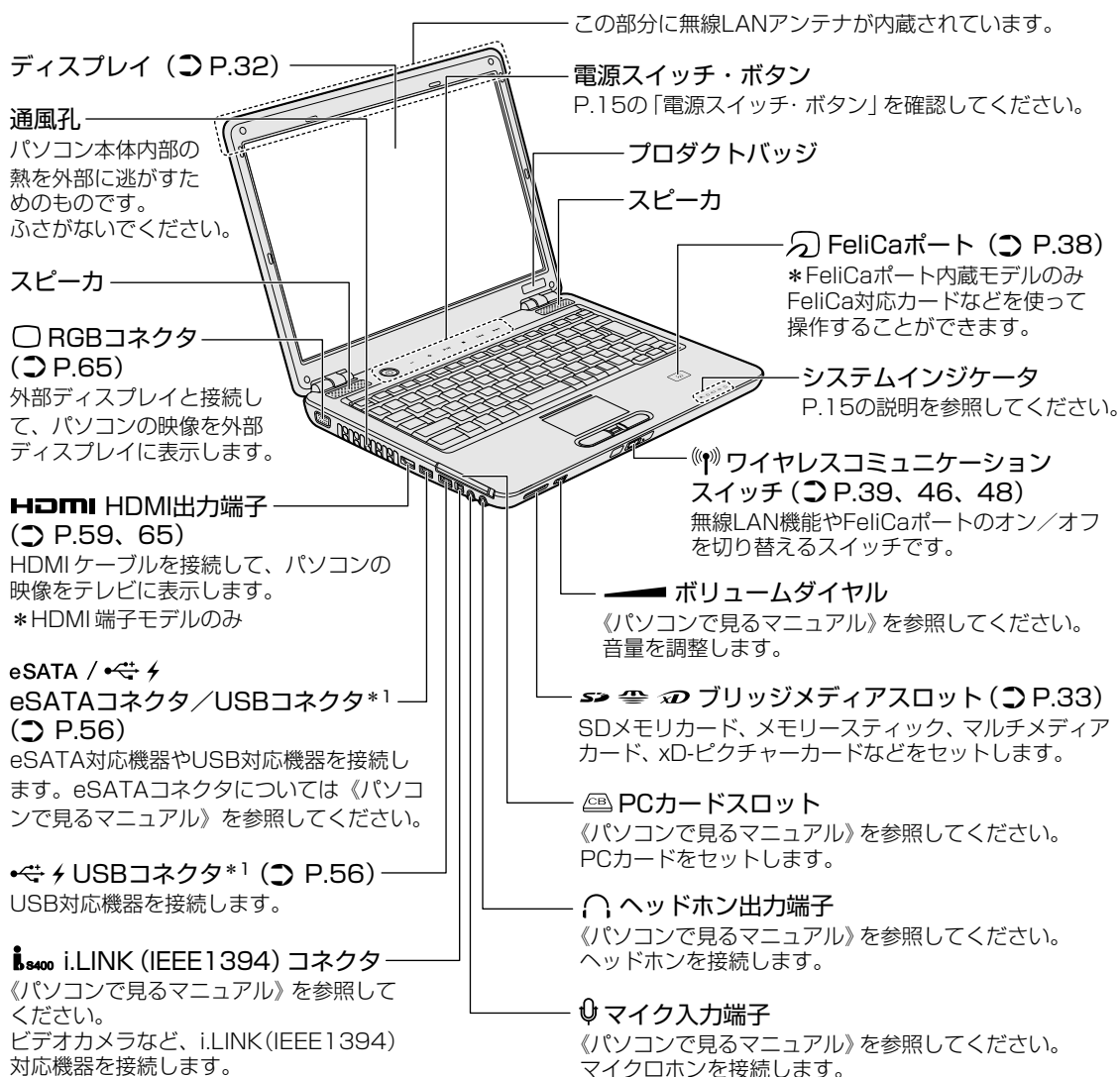
このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1 各部の名称
ー 外観図 ー

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページや各マニュアルを確認してください。

お願い 外観図について

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

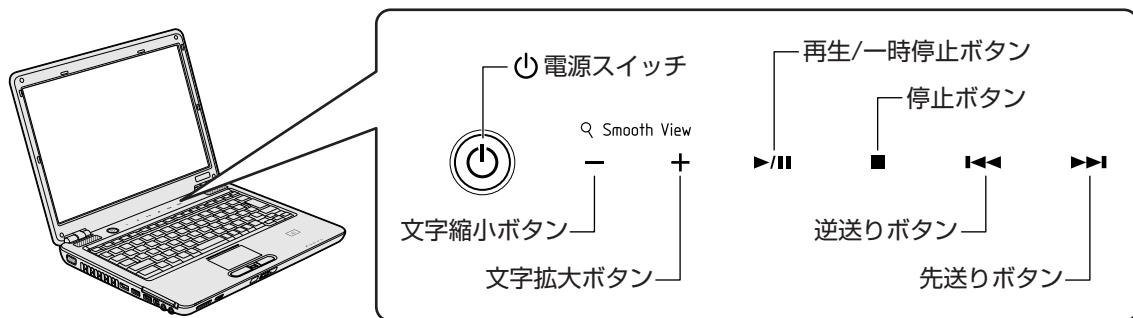
1 前面図

＊1 設定を行うと、パソコン本体の電源が入っていない状態でも、USBコネクタから外部機器に電源を供給することができます。

1 システムインジケータ

システムインジケータは、点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

	DC IN LED	電源コード接続の状態 参照 『準備しよう 1章 4-3- 電源に関する表示』
	Power LED	電源の状態 参照 『準備しよう 1章 4-3- 電源に関する表示』
	Battery LED	バッテリの状態　参照 P.70
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 P.24
	ブリッジメディアLED	ブリッジメディアスロットにアクセスしている 参照 P.34

2 電源スイッチ・ボタン

パソコンでDVDを見たり音楽を聴いたりするとき、ボタンを使用すると簡単に操作することができます。

ボタンの操作方法

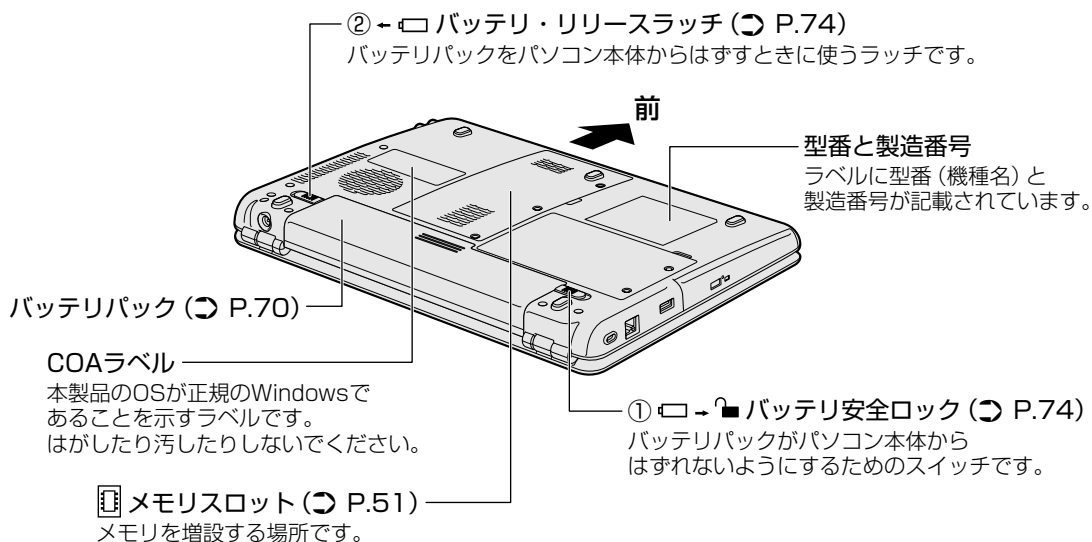
操作するボタンを、指で押してください。押したボタンに割り当てられている機能を実行します。ボタンに割り当てられている機能は「東芝ボタンサポート」で変更できます。詳しくは、《パソコンで見るマニュアル（検索）：ボタン設定を変更する》を参照してください。

ボタン機能

それぞれのボタンの機能は、《パソコンで見るマニュアル（検索）：ボタン操作一覧》を参照してください。

2 背面図

＊1 設定を行うと、パソコン本体の電源が入っていない状態でも、USBコネクタから外部機器に電源を供給することができます。

3 裏面図

お願い 本製品の裏面について

- 通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。
  ふさがないでください。

お願い 機器への強い衝撃や外圧について

- あらかじめ、「付録 1-1 パソコン本体について」を確認してください。

❏ 電源コードの仕様

本製品に付属の電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
使用できる電圧（AC）は、100Vです。
必ずAC100Vのコンセントで使用してください。
＊ 取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

❏ ACアダプタの仕様

パソコン本体裏面の、型番が記載してあるラベルにDC電源の仕様が記載されています。ラベルの「定格電圧」「定格電流」と同じ数値が記載されている、付属のACアダプタをご使用ください。

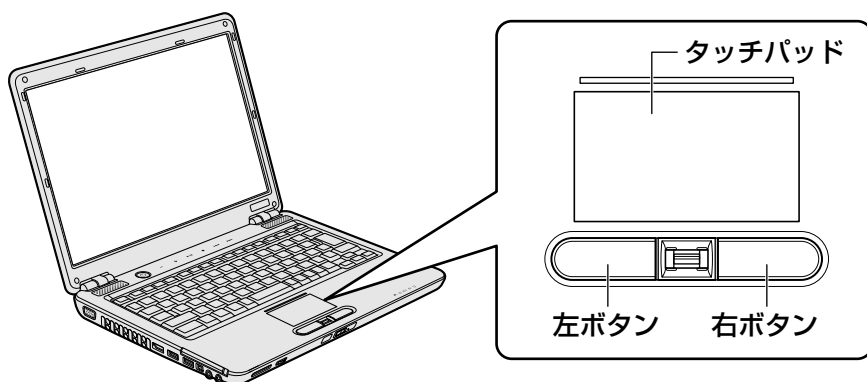
2 ポインタを動かす／文字キーを使う
ータッチパッドとマウスとキーボードー

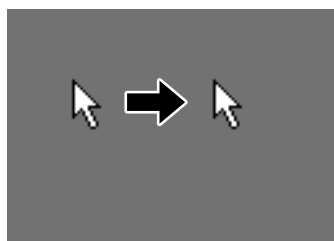
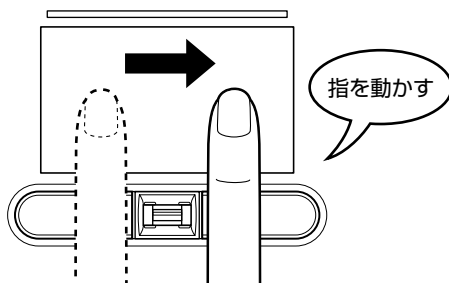
1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

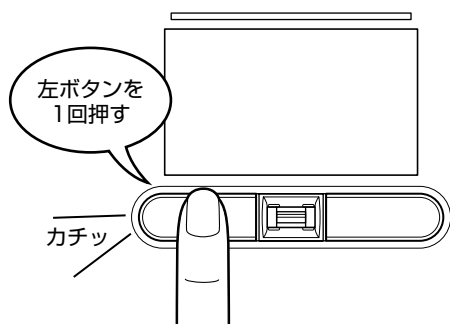
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。
ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い　タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 1 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

1 矢印（ポインタ）を動かす

操作を始める位置を示す矢印（ポインタ）は、タッチパッドに置いた指の方向に合わせて動きます。指を上下左右に動かしてみましょう。
指がタッチパッドの端まできてしまい、それ以上動かせなくなったときは、いったん指をはなしてから、タッチパッドの中央に置き直して操作します。

（画面）

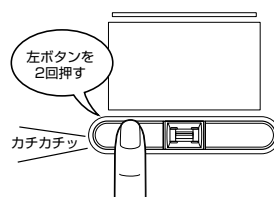
2 アイコンを選択する

アイコン、文字などを選択するには、ポインタを目的のアイコンや文字などの位置に合わせて、左ボタンを1回押します（クリック）。
アイコンなどを選択すると、色が変わります。

<クリックする前>

<クリックした後>

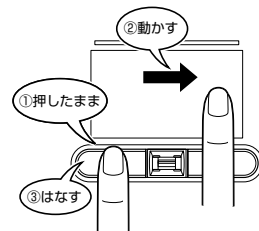
役立つ操作集

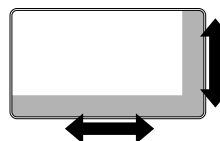
ダブルクリックする

ダブルクリックすると、ファイルを開いたりアプリケーションを起動できます。
ポインタを目的の位置に合わせて、左ボタンをすばやく2回押します。

右クリックする

右クリックすると、メニューが表示され、そこから行いたいことをクリックして選択できます。ポインタを目的の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

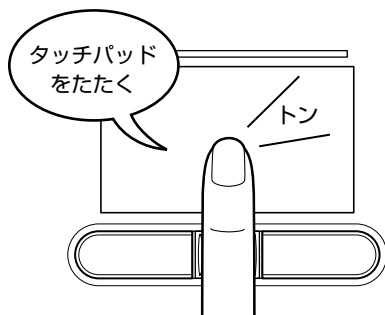
ドラッグアンドドロップする

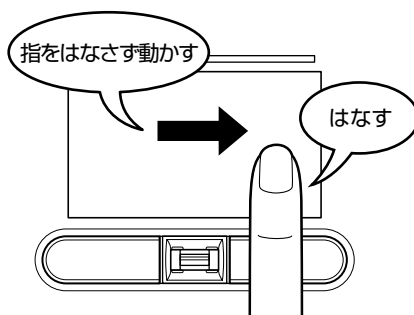
ドラッグアンドドロップをすると、アイコンやウィンドウを移動したり、複数の文字やアイコンを選択したりできます。ポインタを目的の位置に合わせて、左ボタンを押したまま①、別の指でタッチパッドを使ってポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。

スクロールする

スクロールとは画面を動かすことです。
スクロールすると画面に表示しきれない部分を見ることができます。
タッチパッドの右辺に指を置いて上下に動かすと、上下にスクロールします。
タッチパッドの下辺に指を置いて左右に動かすと、左右にスクロールします。

3 慣れてきたら

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

タッチパッドの設定変更については、《パソコンで見るマニュアル（検索）：タッチパッドの設定》を参照してください。

2 マウスの使いかた

マウスはタッチパッドの左ボタン／右ボタンと同じ働きをします。
モデルによっては、次のUSB対応の光学式マウスが付属しているものもあります。USBコネクタに接続して使用してください。
マウスは、Windowsのセットアップが終わったあとに接続してください。

参照 マウスの接続について「3章 3 USB対応機器を使う」

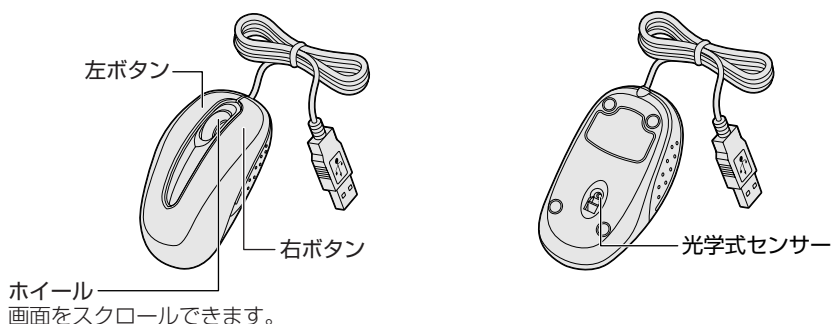
メモ

- USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

  参照 設定方法《パソコンで見るマニュアル（検索）：タッチパッドの設定》

マウスを使ってポインタを動かしたり、クリック、ダブルクリックなどをしてみましょう。

❏ 横スクロール機能付光学式マウス

＊横スクロール機能付光学式マウス付属モデルのみ

マウスの持ちかた

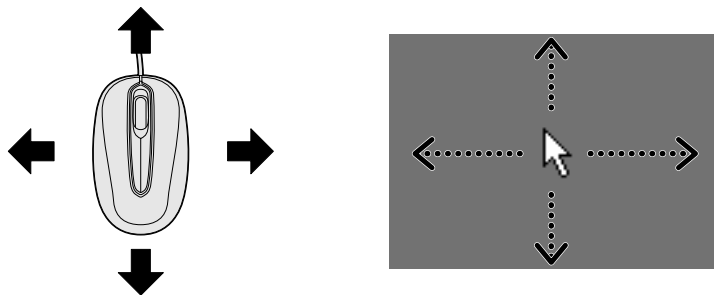
マウスを手のひらで包むように持ち、人さし指と中指を各ボタンの上に置きます。

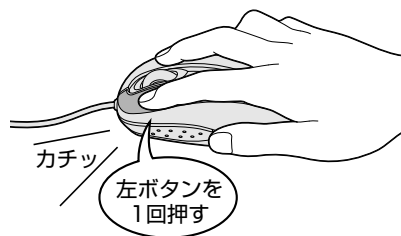
マウスをうまく動かすポイント

マウスを動かす場所がなくなったときは、いったんマウスを持ち上げ、マウスを動かせる位置に戻します。

- **マウスパッドについて**
  光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
  光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。
- **マウスの使用場所**
  マウスは平らな場所で使用してください。
  また、ガラスなどの透明な素材、鏡や光沢のあるビニールなどの光を反射する素材の上では使用しないでください。光学式センサーがうまく動作しない場合があります。

1 ポインタを動かす

滑らせるようにしてマウスを上下左右に動かします。ポインタがマウスの動きに合わせて動きます。

2 アイコンを選択する

ポインタを目的の位置に合わせて、左ボタンを1回押します（クリック）。

役立つ操作集

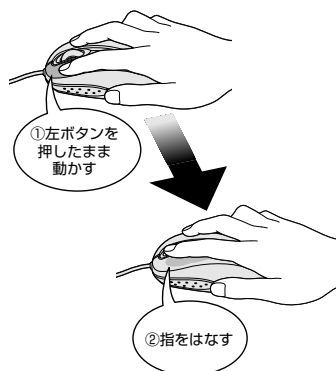
ダブルクリックする

ポインタを目的の位置に合わせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。
ダブルクリックするときは、マウスが動かないように固定した状態でボタンを押してください。

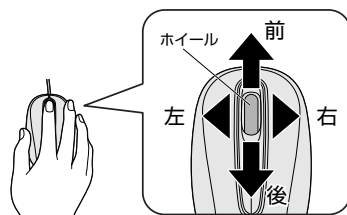
右クリックする

ポインタを目的の位置に合わせて、右ボタンを1回押すことです。

ドラッグアンドドロップする

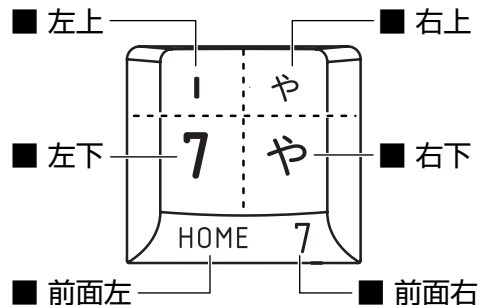
ポインタを目的の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、マウスを動かします①（ドラッグ）。
ポインタが目的の位置に移動したら、ボタンから指をはなします②（ドロップ）。

スクロールする

ホイールを前後にまわしたり、左右に傾けたりすると、画面をスクロールすることができます。

＊ 左右のスクロールは、横スクロール機能付マウスのみ可能です。

メモ　マウスについて

● アプリケーションによっては、ホイールを使ったスクロールに対応していない場合があります。

3 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFT キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で SHIFT キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（そくおん）（小さい「っ」）、拗音（ようおん）（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）などが入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
前面左	アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
前面右	数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

キーボードを使った文字や記号の入力操作の詳細については、『アシストシート』、《パソコンで見るマニュアル（検索）：キーボードの文字キーの使いかた》を参照してください。

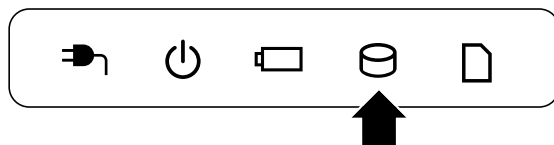
3 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型やeSATA接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

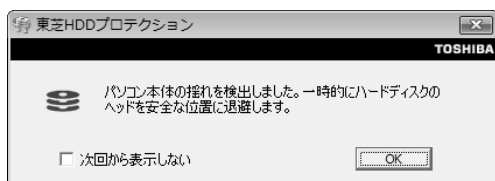
- あらかじめ、「付録 1-2 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk LEDが点灯します。

USB接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LEDは点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

1 東芝HDDプロテクションについて

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

お願い 東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- その他の注意事項については、あらかじめ「付録 1 - 2 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」を確認してください。

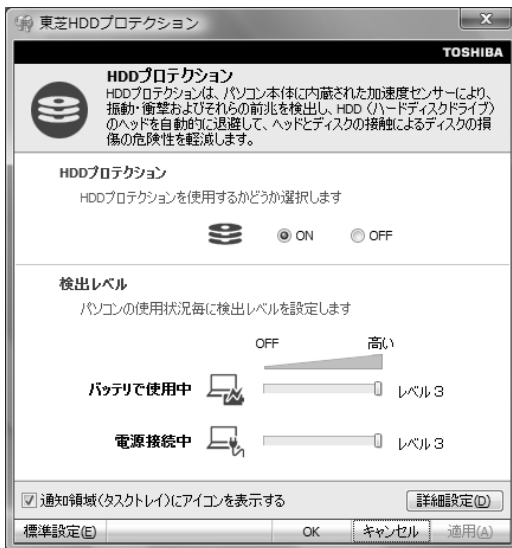
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。
東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプタ）接続時とバッテリ使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

<table>
<tr><td>HDDプロテクション</td><td>東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。</td></tr>
<tr><td>バッテリで使用中</td><td rowspan="2">「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。
「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。
なお使用に応じてレベルを低く設定できます。*1</td></tr>
<tr><td>電源接続中</td></tr>
</table>

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げてご使用することもできます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。
さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 5 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

<table>
<tr><td>ACアダプタを抜いたとき</td><td rowspan="2">検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。</td></tr>
<tr><td>パネルを閉めたとき</td></tr>
<tr><td>HDDプロテクション動作時メッセージを表示する</td><td>東芝HDDプロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。</td></tr>
</table>

5 ［東芝HDDプロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

4 CDやDVDを使う
－ ドライブ －

本製品には、DVDスーパーマルチドライブが1台内蔵されています。
ドライブには次のマークが入っています。

＊マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R＊1、DVD+RW、DVD+R＊2、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

＊1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用する記録メディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-ROM	○	×
DVD-R	○＊3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD+R	○＊3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

メモ　書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

・TOSHIBA Disc Creator（トウシバ ディスク クリエイタ）

参照 『映像と音楽を楽しもう 4 オリジナル音楽CDを作る』、
《パソコンで見るマニュアル（検索）：CD／DVDを作りたい》

・DVD MovieWriter for TOSHIBA（ディーブイディー ムービー ライタ フォー トウシバ）

参照 『映像と音楽を楽しもう 2 映像を編集してDVDに残す』、
「DVD MovieWriter」のヘルプ

- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

2 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い　CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-3 CDやDVDについて」、「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

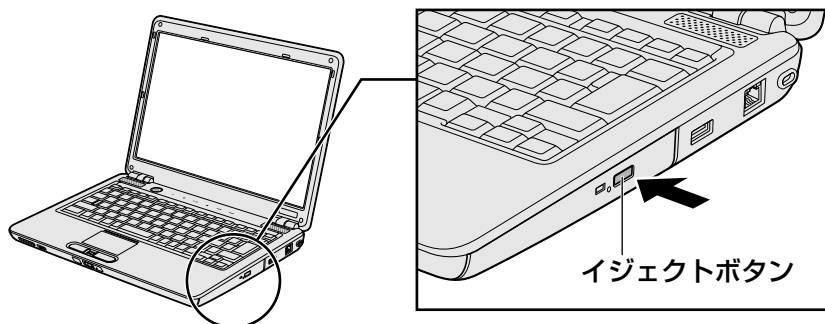
- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindows Vistaが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
  このWindows Vistaの機能を無効にするには、次のように操作してください。
  ① ［スタート］ボタン（　）→［コンピュータ］をクリックする
  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  　ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ③ ［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ④ ［共通の設定］画面で［ディスクの取り出し時のUDFセッションを自動的に閉じる］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

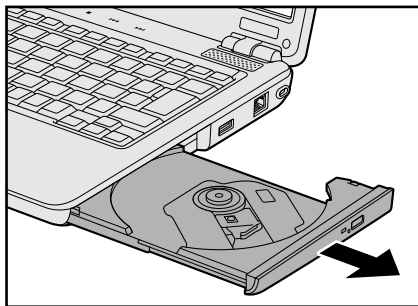
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

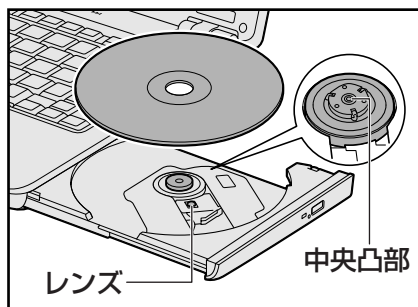
1 **パソコン本体の電源を入れる**

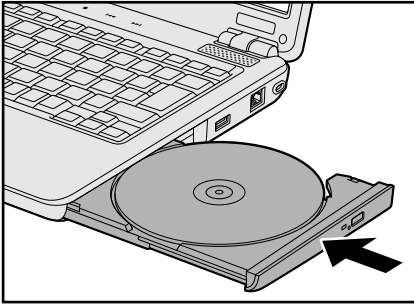
Windowsが起動します。

2 **イジェクトボタンを押す**

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※内蔵されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 **ディスクトレイを引き出す**

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 **文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする**

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

3 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

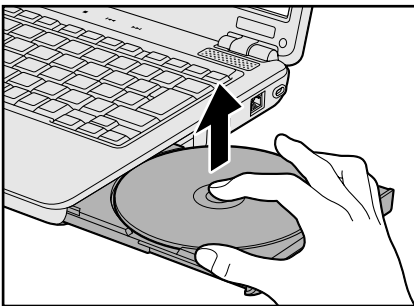
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

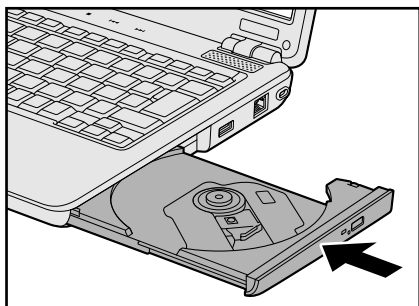
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

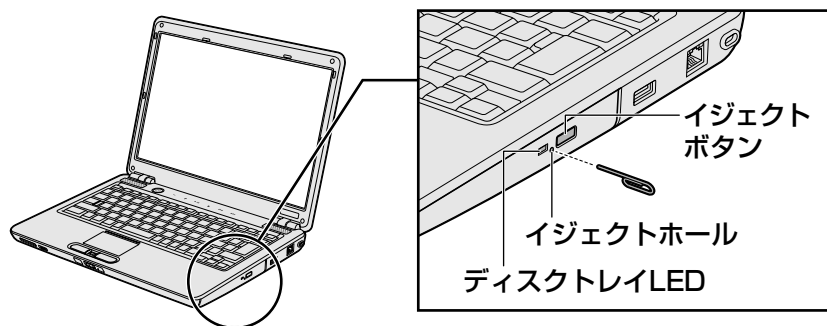
4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

CD／DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、イジェクトボタンを押してもCD／DVDは出てきません。電源を入れてからイジェクトボタンを押し、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押したあとすぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  ※購入したモデルによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

参照 CD／DVDが取り出せない場合
《パソコンで見るマニュアル（検索）：イジェクトボタンを押してもCD／DVDが出てこない》

5 画面を見やすく調整する
－ ディスプレイ －

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1280×800ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

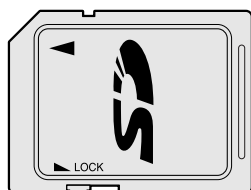
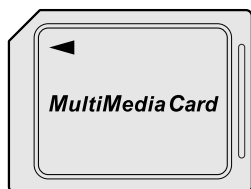
❑ 輝度の調整方法

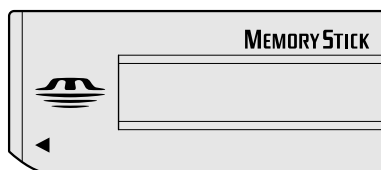
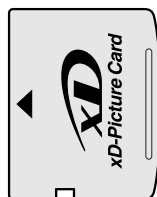
FN＋F6 ： FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

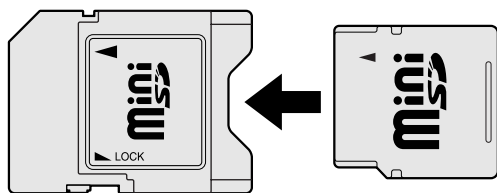
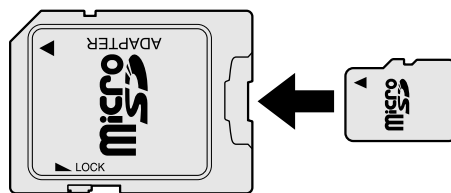
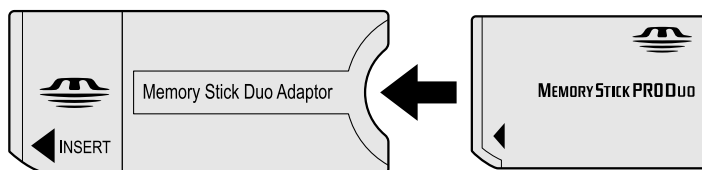
FN＋F7 ： FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

6 いろいろなメディアカードを使う
－ ブリッジメディアスロット －

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。
下のイラストは、すべて原寸大です。

- SDメモリカード＊1
- SDHCメモリカード＊1

＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

- メモリースティック
- メモリースティックPRO

- マルチメディアカード

- xD-ピクチャーカード

次のメディアカードは、市販のアダプタを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプタを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプタを使用します。

- microSDメモリカード
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタを使用します。

- メモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオ
  メモリースティック デュオ アダプタを使用します。

アダプタの装着や使用方法は、メディアカードの取扱説明書を確認してください。

それぞれのメディアカードで使用できる容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い　メディアカードの使用にあたって

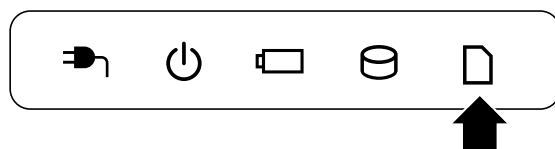
- あらかじめ、「付録 2-3 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードとSDHCメモリカードは、再フォーマットをするときに「東芝SDメモリカードフォーマット」も使用できます。
「東芝SDメモリカードフォーマット」については、《パソコンで見るマニュアル（検索）：SDカード／SDHCカードのフォーマット》をご覧ください。

2 メディアカードのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

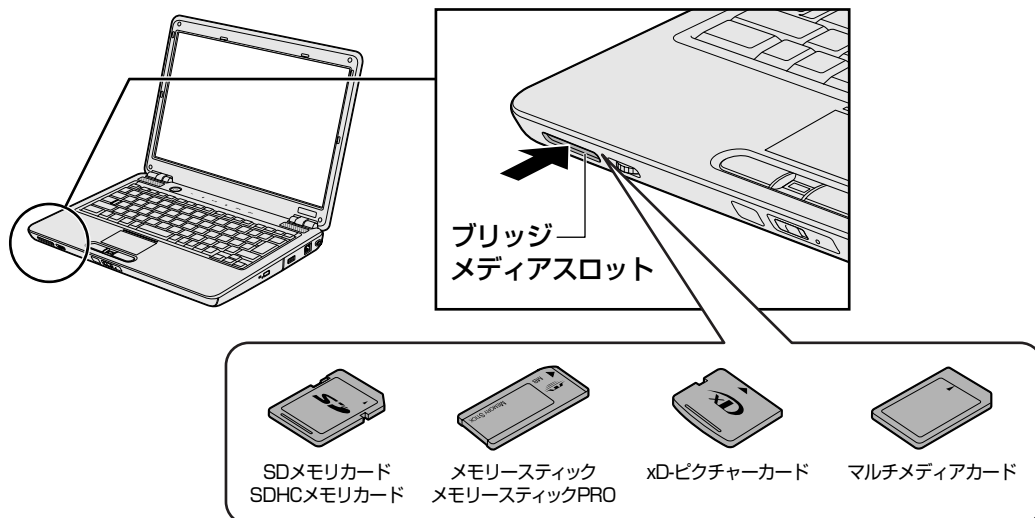
パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

お願い　操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2-3 メディアカードを使う前に」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプタが必要です。
  メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO デュオは、メモリースティック デュオ アダプタが必要です。
  アダプタを使用せずに直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする

［コンピュータ］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

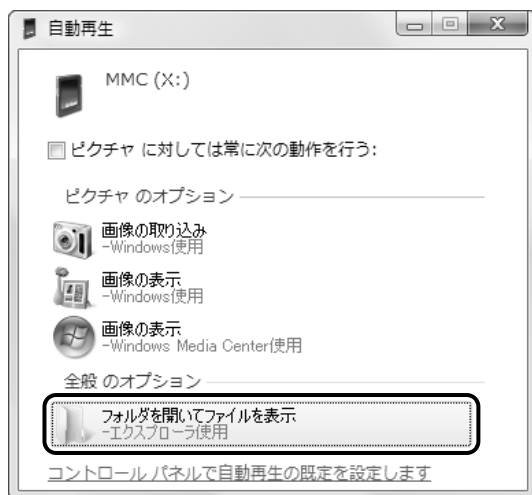
以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード ： セキュリティで保護された記憶域デバイス
SDHCメモリカード ： セキュリティで保護された記憶域デバイス
メモリースティック ： リムーバブルディスク、MemoryStick、MS/MSPro
メモリースティックPRO ： リムーバブルディスク、MemoryStick PRO、MS/MSPro
xD-ピクチャーカード ： リムーバブルディスク、xD-Picture Card
マルチメディアカード ： リムーバブルディスク、MMC、MMC記憶域デバイス

（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする

［コンピュータ］画面が表示されます。

②メディアカードのアイコンを右クリックし①、［安全に取り外す］をクリックする②

（表示例）

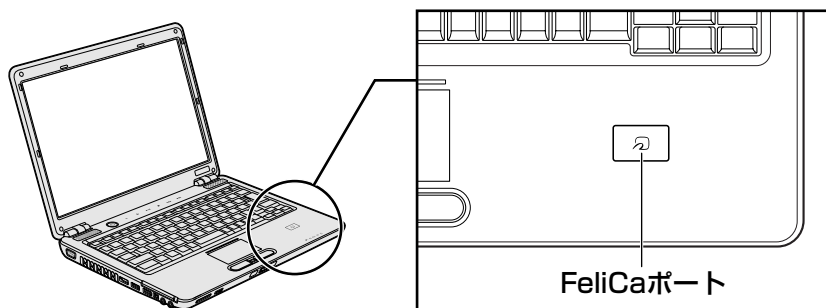
通知領域に［ハードウェアの取り外し］のメッセージが表示されます。

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

7 FeliCaポートを使う

＊FeliCaポート内蔵モデルのみ

本製品には、「FeliCa（フェリカ）ポート」が内蔵されています。
「FeliCa」に対応しているカードや携帯電話をパソコン本体のFeliCaポートにかざすことで、「かざしてナビ」などの「FeliCaポート」対応アプリケーションを使用することができます。

お願い FeliCaポートの操作について

- あらかじめ、「付録 1-7 FeliCaポートについて」を確認してください。
  使用上の注意事項を説明しています。

FeliCaについて

「FeliCa」は電子マネーや交通機関のプリペイドカードなどで使われている、非接触ICカード技術方式のひとつです。「FeliCa」に対応しているカードを読取装置にかざすことで、お店の支払いや改札機を通過することができます。
カードの種類によって利用できるサービスが異なります。

本書では、「FeliCa」に対応しているカードを「FeliCa対応カード」、携帯電話を「FeliCa対応携帯電話」と呼びます。特に説明がない場合は、本文中にでてくる「FeliCa対応カード」にFeliCa対応携帯電話の説明も含まれています。

メモ

- FeliCaプラットフォームマーク（ ）は、本製品がFeliCaを利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

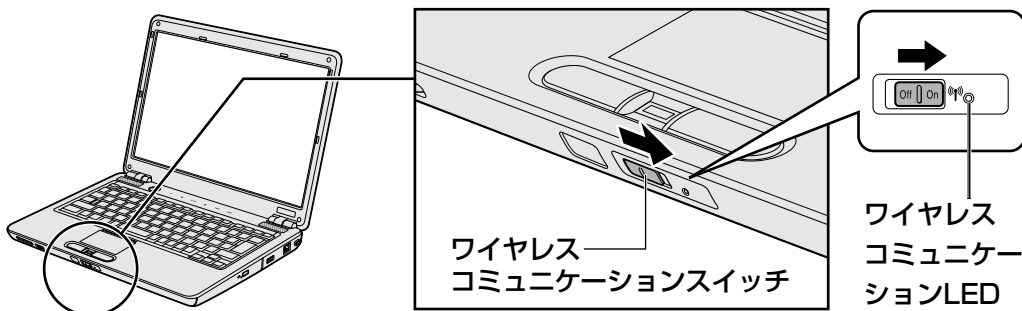
1 FeliCa対応カードをかざす

⚠警告

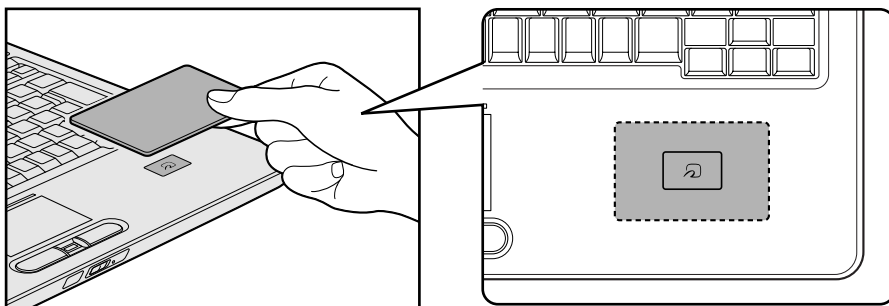
- FeliCaポートが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカを装着している方は、心臓ペースメーカの装着部位から22cm以上離す
  電波によりペースメーカの動作に影響を与えるおそれがあります。

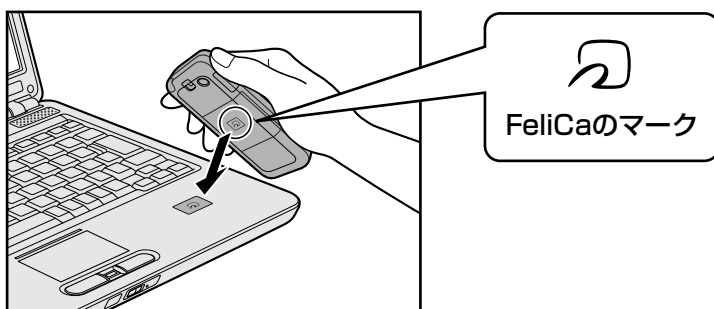
飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にするとFeliCaポートのポーリングもオフになります。

参照 ポーリングについて「付録 1 - 7 - ポーリングについて」

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション (アンテナアイコン) LEDが点灯します。

2 FeliCa対応カードまたはFeliCa対応携帯電話をFeliCaポートにかざす

【FeliCa対応カード】

カードを横向きに持ち、カードの中心をFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

【FeliCa対応携帯電話】

携帯電話のFeliCaのマークをFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

FeliCa対応カードまたはFeliCa対応携帯電話をかざすと、「かざしてナビ」が起動します。

参照 かざしてナビについて「本節 2 カードをかざしてアプリケーションを使う」

メモ　FeliCa対応カードのかざしかた

- FeliCa対応カードは、必ず1枚ずつ使用してください。複数枚のカードを同時にかざすと、正しく読み取ることができません。
- FeliCa対応カードがFeliCaポートからはみ出す、または傾けてかざすと、正しく認識できないことがあります。また、かざしたFeliCa対応カードが認識されにくい場合は、FeliCa対応カードを直接FeliCaポートに置いてください。
- FeliCa対応カードをかざしても、「かざしてナビ」が起動しない場合や、「FeliCaポート」対応アプリケーションが反応しない場合は、「付録 1 - 7 FeliCaポートについて」を確認してください。

2 カードをかざしてアプリケーションを使う

本製品の「FeliCaポート」対応アプリケーションは、「かざしてナビ」から起動することができます。

かざしてナビについて

「かざしてナビ」は、「FeliCaポート」対応アプリケーションを簡単に起動できるようにメニューにまとめたものです。FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話を、FeliCaポートにかざすことで起動できます。

「かざしてナビ」には、「FeliCa」を利用して実行する、さまざまな機能を持ったアプリケーションが用意されています。
使用したいアプリケーションのボタンをクリックすると、起動します。

交通機関：交通機関が発行しているFeliCa対応カードの残高と利用履歴を確認できます。
ショッピング：「電子マネー」の残高確認やチャージ、専用サイトへのアクセスなどのサービスを受けることができます。
エンターテイメント：FeliCa対応携帯電話をかざすと、携帯電話で購入した動画をパソコンに表示して見ることができます。
PCユーティリティ：FeliCa対応カードでパソコンにログオンするアプリケーションや、入力を簡単にするアプリケーションなどがあります。

詳しくは、「かざしてナビ」および各アプリケーションのヘルプを確認してください。

メモ　「FeliCaポート」対応アプリケーションについて

- 「かざしてナビ」を初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認]画面が表示されますので、内容を確認し、[同意する]ボタンをクリックします。続いて、ユーザ登録をおすすめする画面が表示されます。この方法でユーザ登録を行うには、インターネットに接続できる環境とメールが受信できる環境が必要です。ユーザ登録を行う場合は、[登録へ]ボタンをクリックし、画面の指示に従ってユーザ登録を行ってください。あとでユーザ登録を行う場合は、[閉じる]ボタンをクリックしてください。
- 「かざしてナビ」にある「ショッピング」のアプリケーションは、インターネットに接続しないと、一部の機能を除いて使用できません。
- 「かざしてナビ」にある「エンターテイメント」の「NFRM」を利用するには、「NFRMPCViewer」のセットアップが必要です。インターネットに接続する準備をしてから、[NFRM]をクリックし、表示されるメッセージに従って操作してください。
- 本製品のアプリケーションで利用できるFeliCa対応カードおよびFeliCa対応携帯電話については、各アプリケーションのヘルプ、またはhttp://www.justsystems.com/jp/atlife/kazasu/card/を確認してください。
  FeliCa対応携帯電話の場合は、本製品のアプリケーションに対応しているサービスを携帯電話にダウンロードすると使用することができます。詳しくは『FeliCa対応携帯電話の取扱説明書』を確認してください。
- 「かざしてナビ」および「FeliCaポート」対応アプリケーションは、[スタート]ボタン（ ）→[すべてのプログラム]→[FeliCaポート]から選択して起動することもできます。
- 「FeliCaポート」対応アプリケーションのお問い合わせ先は、「7章 1-2 アプリケーションのお問い合わせ先」を参照してください。

2章

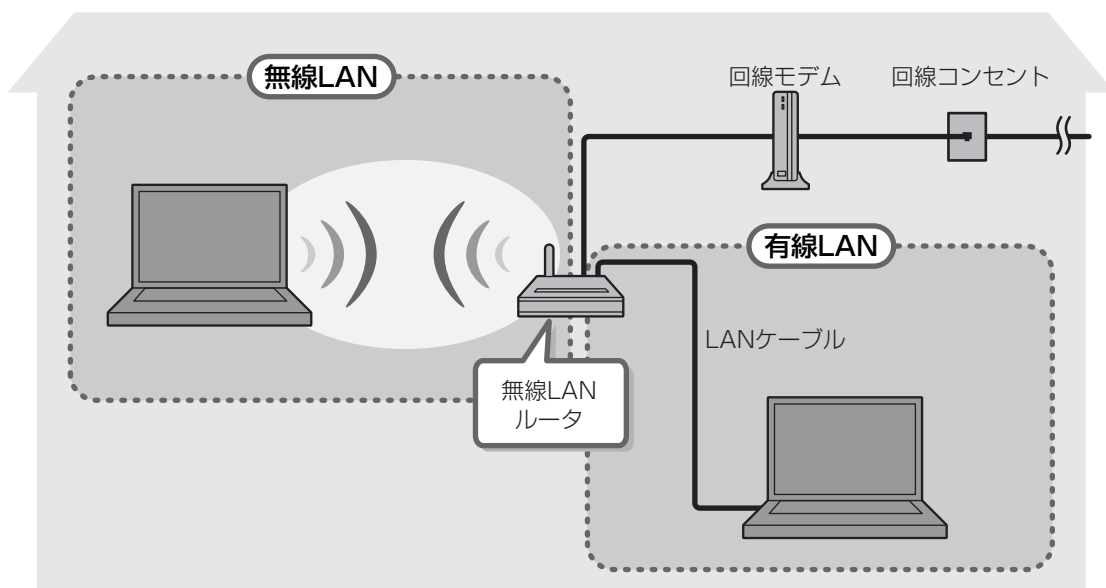
ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンタを共有したいときや、インターネットに接続したいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、家庭内に複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、『準備しよう 3章 1-1 ブロードバンドで接続する』を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANルータや無線LANアクセスポイント（市販）などを使用することによって、ワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンタなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに合った説明をご覧ください。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

2 表示されたメニューから［ワイヤレス ネットワーク接続］→［プロパティ］をクリックする

3 ［接続の方法：］でアダプタ名を確認する

アダプタ名が示すモジュールは、次のようになります。

- **「Intel(R) Wireless Wi-Fi Link 5100」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11n draft2.0に対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel a/b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR9281 Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11n draft2.0に対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Realtek RTL8192E Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11n draft2.0に対応したモジュールです。このモジュールを、「Realtek b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 4-1 無線LANの概要」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

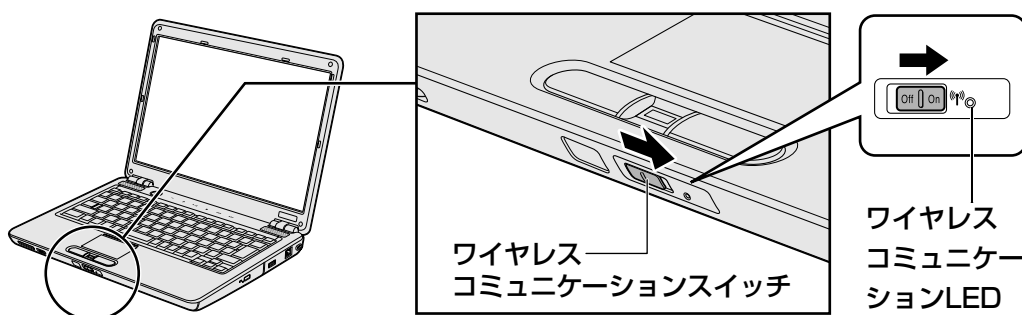
⚠ 警 告

- **無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカを装着している方は、心臓ペースメーカの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

お願い　無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 無線LANについて」を確認してください。
  『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の3種類があります。
詳細については、それぞれの参照先を確認してください。

- 「無線LANらくらく設定」を使う

  参照 『スタートアップガイド』

- 「ConfigFree」を使う

  参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

- Windows標準機能を使う

  参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：無線LANでネットワークに接続する》

メモ　ConfigFree（コンフィグフリー）

- 本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

参照 ConfigFreeについて《パソコンで見るマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

2 Bluetooth機能

＊Bluetoothモデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。
詳細については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

参照 起動方法「本節 1 - Bluetoothユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

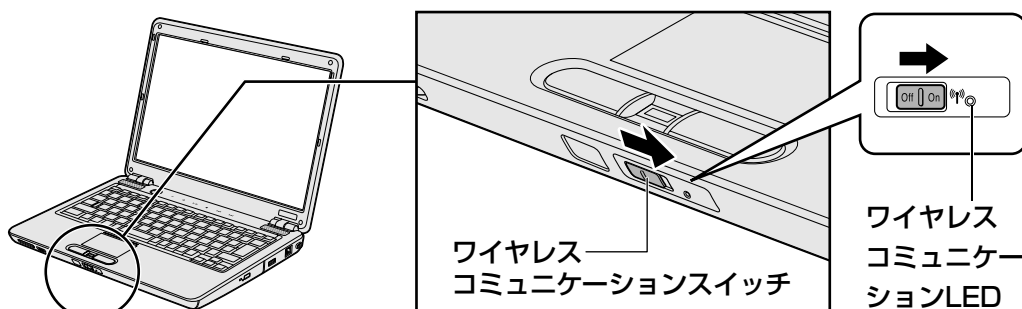
- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.1、2.0+EDR、2.1+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠警 告

- **Bluetoothモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカを装着している方は、心臓ペースメーカの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

2 [スタート] ボタン ( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth設定] をクリックする

初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。
「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する [自動登録] 画面が表示されます。すぐにBluetooth対応機器を登録する必要がない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。
通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
[Bluetooth Manager] アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。
Bluetoothの電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン（ ）を右クリックして表示されたメニューから、[Bluetoothオン] を選択して電源を入れてください。

本製品には、ほかのBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth ユーティリティ」がプレインストールされています。
初めてBluetoothを使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 [スタート] ボタン ( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [ユーザーズ ガイド] をクリックする

3章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介や、よく使う周辺機器の取り付けかたと各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリ

■外付け方式のもの

本製品のインタフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカに確認してください。

お願い　周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1-5 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
- USB対応機器
- テレビ
- 外部ディスプレイ

参照 「本章 2 」以降

ほかにも、次の周辺機器が使用できます。

- i.LINK（IEEE1394）対応機器（デジタルビデオカメラなど）
- eSATA対応機器
- マイクロホン
- ヘッドホン

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：i.LINK対応機器の接続》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：eSATA対応機器を使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：マイクロホンを使う》

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ヘッドホンを使う》

2 メモリを増設する

メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
ご購入のモデルによって、あらかじめ取り付けられているメモリの容量が異なります。
取り付けられているメモリを増設メモリ（東芝製オプション）と付け換えたり、メモリが取り付けられていないスロットに増設メモリ（東芝製オプション）を取り付けることができます。
増設メモリは、2GB、1GBの2タイプがあります。
取り付けることのできるメモリの容量については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

モデルによっては、すでに最大容量のメモリが取り付けられている場合があります。その場合は、増設できません。
増設メモリの取り付け／取りはずし作業が難しい場合は、お買い求めの販売店などにご相談ください。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しない**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠注 意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れない**
  火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行う**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わない**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い **メモリの増設の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - メモリの増設の操作にあたって」を確認してください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

メモ　デュアルチャネルについて

- デュアルチャネルで動作すると、2枚のメモリに効率よくアクセスできます。
  デュアルチャネルで動作させるためには、ご購入のモデルによって取り付けるメモリの仕様が異なります。取り付けるメモリの仕様については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 メモリを取り付ける

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 メモリを取りはずす」

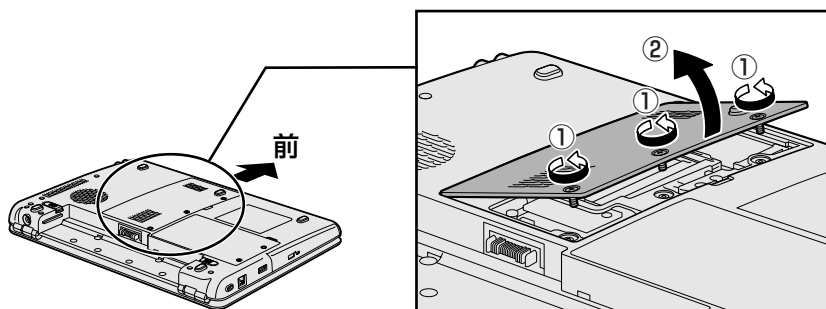
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

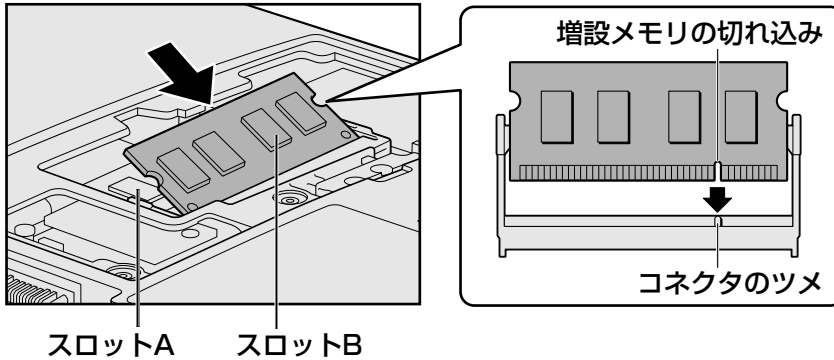
参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-2 電源を切る』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

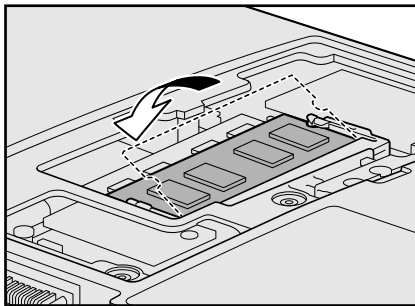
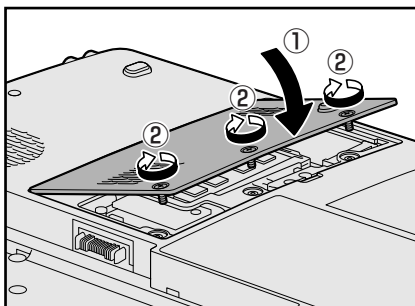
参照 バッテリパックの取りはずし「4章 1-3 バッテリパックを交換する」

4 メモリカバーのネジ3本をゆるめ①、カバーをはずす②

メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリをメモリスロットのコネクタに斜めに挿入する

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロットA、上段がスロットBです。

増設メモリの切れ込みを、メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 固定するまで増設メモリを倒す

「カチッ」と音がする位置まで増設メモリを倒してください。

7 メモリカバーをつけて①、手順 4 でゆるめたネジ3本をとめる②

メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4章 1-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量を確認する」

2 メモリを取りはずす

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-2 電源を切る』

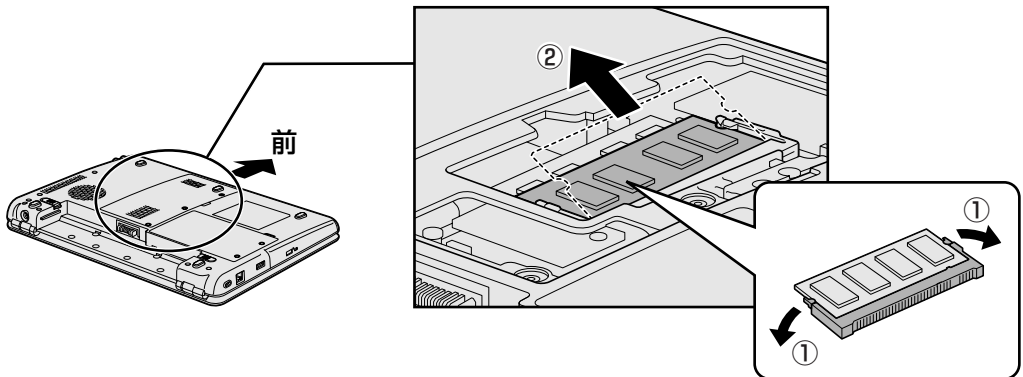
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4章 1-3 バッテリパックを交換する」

4 メモリカバーのネジ3本をゆるめ、カバーをはずす

メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを固定している左右のフックを開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロットA、上段がスロットBです。

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ3本をとめる

メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4章 1-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC診断ツール］をクリックする

2 ［基本情報］タブの［物理メモリ］の数値を確認する

3 USB対応機器を使う

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USBフラッシュメモリ　　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

（ ）アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

お願い **USBの常時給電について**

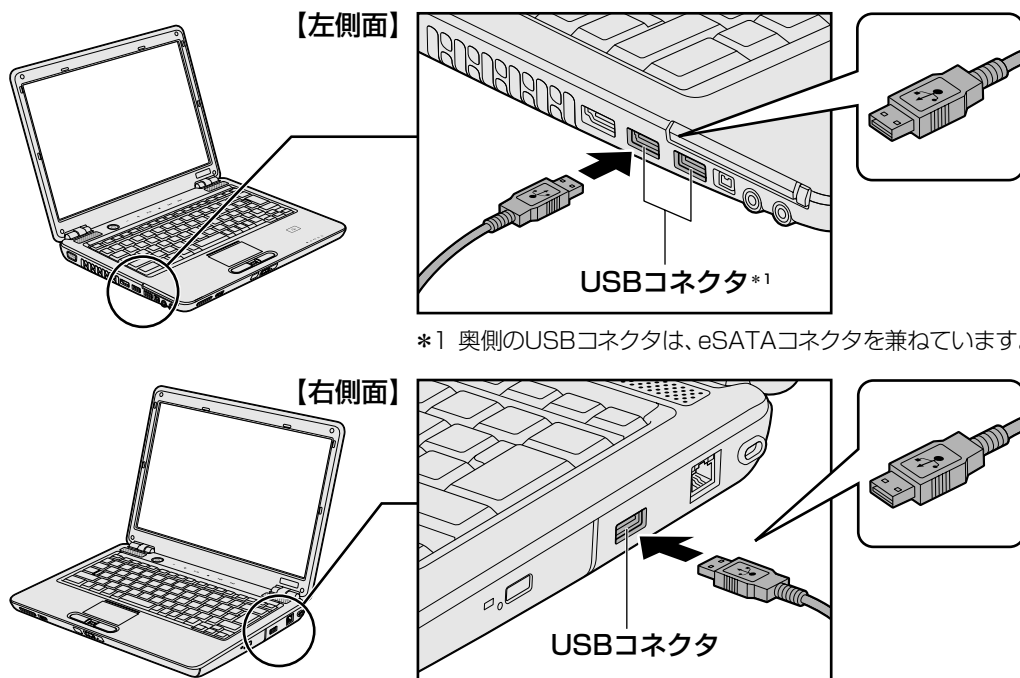
- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USBの常時給電について」を確認してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

*1 奥側のUSBコネクタは、eSATAコネクタを兼ねています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

* 通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4 パソコンの画面をテレビに映す
－ テレビの接続 －

＊HDMI端子モデルのみ

HDMI出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。
HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。

■パソコン上で再生中のDVDを、テレビに表示する

「TOSHIBA DVD PLAYER」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

参照 「TOSHIBA DVD PLAYER」について『映像と音楽を楽しもう 1 DVDの映画や映像を見る』

お願い テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 -テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

メモ

- 本製品のHDMI出力端子にはテレビの代わりに、DVI端子のある外部ディスプレイを接続して表示することもできます。市販のケーブルを使用して接続してください。詳しくは、「本章 5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」を参照してください。

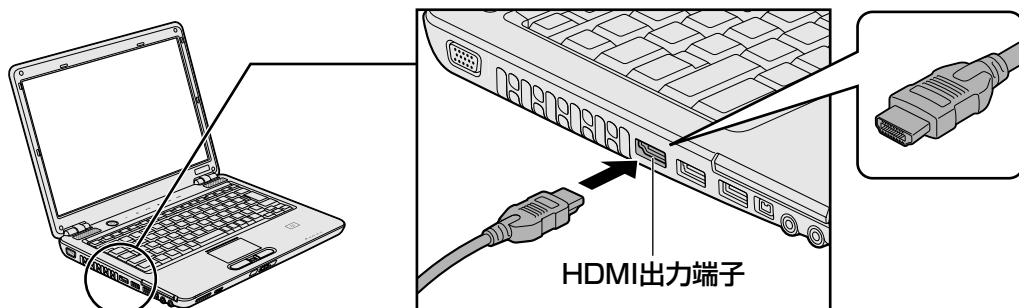
■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
HDMI入力端子があるテレビを接続できます。
接続するHDMI ケーブルは、市販のものを使用してください。

メモ

- HDMI 出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- RGBコネクタを備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、『テレビに付属の取扱説明書』と、「本章 5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」を参照してください。

1 パソコンに接続する

1 HDMI ケーブルのプラグをパソコン本体のHDMI 出力端子に差し込む

2 HDMI ケーブルのもう一方のプラグをテレビのHDMI 入力端子に差し込む

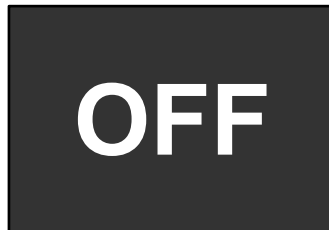
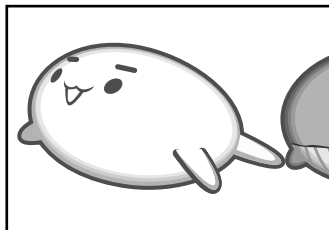
メモ

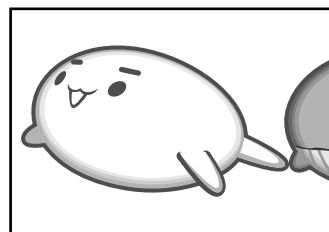
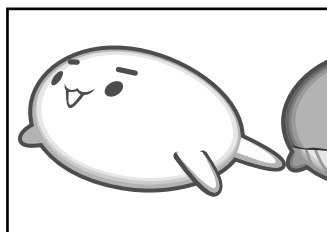
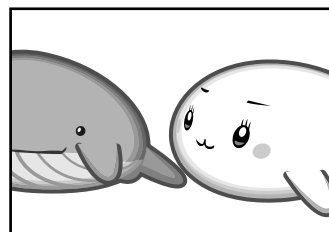
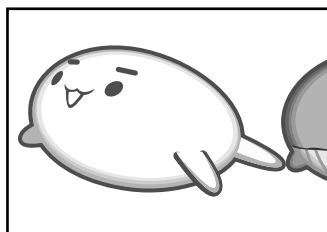
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **拡張表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊ 拡張表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビに表示する場合は、1024×768ドット以下の解像度でご覧ください。
  表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。

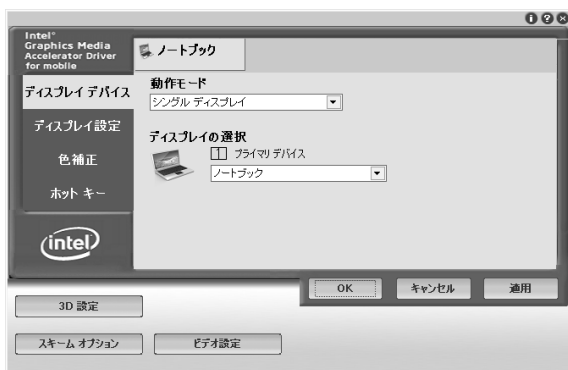
1 方法1 － コントロールパネルで設定する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ その他のオプション］をクリックする

3 ［ Intel(R) GMA Driver for Mobile］をクリックする

4 ［ディスプレイデバイス］で表示する装置を選択する

「設定方法」に進んでください。

（表示例）

❏ 設定方法

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビだけに表示

①［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

②［ディスプレイの選択］の［1 プライマリデバイス］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［ノートブック］

・テレビに表示する場合：［デジタル テレビ］

③［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

①［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［Intel(R)　デュアル・ディスプレイ・クローン］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

②［ディスプレイの選択］の［1 プライマリデバイス］と［2 セカンダリデバイス］を設定する

［ノートブック］は「本体液晶ディスプレイ」、［デジタルテレビ］は「テレビ」を示します。

③［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

2 方法2 － FN＋F5キーを使う

- **表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法**
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置を選択する

FNキーを押したままF5キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）に表示した場合のカードです。

＊アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切替え可能なパターンを示しています。
FNキーを押したままF5キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

- LCD……本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD＋CRT……本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにクローン表示
- CRT……外部ディスプレイだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD＋HDMI……本体液晶ディスプレイとHDMI 出力端子に接続したテレビにクローン表示
- HDMI……HDMI 出力端子に接続したテレビだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- HDMI+CRT……HDMI 出力端子に接続したテレビと外部ディスプレイにクローン表示
- LCD+CRT Extended Desktop……本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに拡張表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

- LCD+HDMI Extended Desktop ......本体液晶ディスプレイとHDMI 出力端子に接続したテレビに拡張表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- HDMI+CRT Extended Desktop ....HDMI 出力端子に接続したテレビと外部ディスプレイに拡張表示
  HDMI 出力端子に接続したテレビがプライマリモニタになります。

メモ

- 表示装置をテレビに切り替えるときは、「方法1」で使用するディスプレイを正しく設定してください。

❏ 拡張表示でプライマリモニタを切り替える方法

現在の表示装置が拡張（Extended Desktop）表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。

＊ 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビを接続した場合のカードです。

（表示例）

FN キーを押したまま F5 キーを数回押しなおし、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが大きい状態で、 FN キーをはなすと、表示装置が切り替わります。

3 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体とテレビに差し込んであるケーブルを抜く

■アプリケーションの利用に関する注意事項

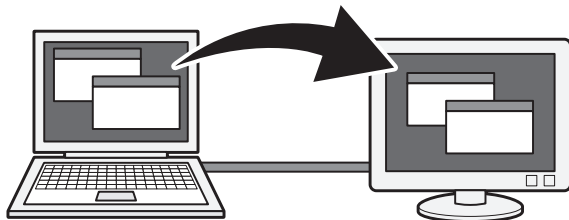
「TOSHIBA DVD PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
起動中は、表示装置を切り替えることができません。

メモ

- HDMI 接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

5 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す
－ 外部ディスプレイの接続 －

本製品の次のコネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

- HDMI（エイチディーエムアイ）出力端子
- RGB（アールジービー）コネクタ

お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

外部ディスプレイを接続するときは、『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

- **HDMI出力端子で接続する場合**
  DVI端子がある外部ディスプレイを接続できます。
  市販のHDMI←→DVI 変換ケーブルをご使用ください。
  DVI端子に接続した場合、音声を出力することはできません。
- **RGBコネクタで接続する場合**
  RGB入力端子がある外部ディスプレイを接続できます。

メモ

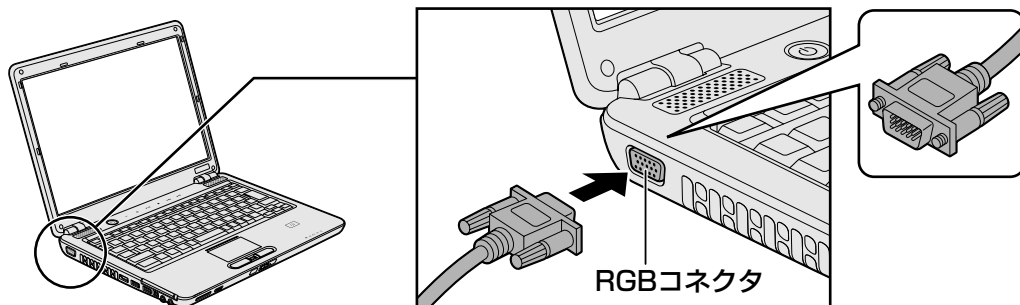
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。
  解像度に合った外部ディスプレイを接続してください。
- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。

1 パソコンに接続する

RGBコネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

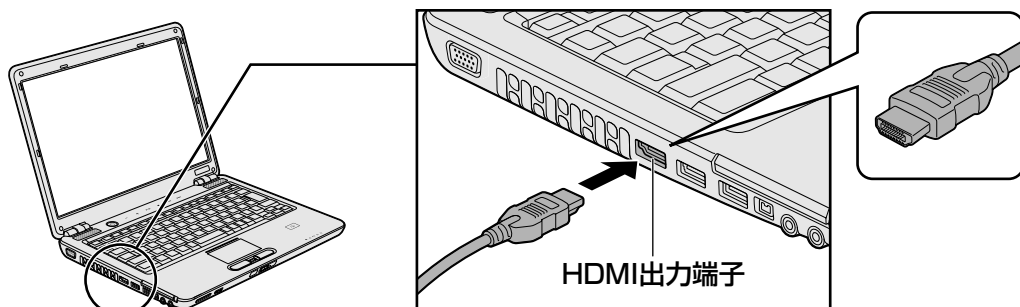
本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的に外部ディスプレイを認識します。

HDMI出力端子に接続する

＊HDMI端子モデルのみ

1 HDMI ケーブルのプラグをパソコン本体のHDMI 出力端子に差し込む

2 HDMI ケーブルのもう一方のプラグを外部ディスプレイのDVI端子に差し込む

メモ

- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。

2 パソコンから取りはずす

HDMI出力端子から取りはずす

1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く

メモ

- HDMI接続で、外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔を空けてください。

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-2 電源を切る』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示
  - ・拡張表示
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 4-2 表示を切り替える」

「電源オプション」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法1」や「方法2」を参考にしてください。「方法1」を参考にする場合は、［ディスプレイデバイス］タブで［PCモニタ］を選択してください。

参照 表示方法について「本章 4-2 表示を切り替える」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
  設定は、クローン表示または拡張表示に設定したあと、［ディスプレイ設定］をクリックし、表示される画面で行います。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

4章

バッテリ駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法について説明しています。

1 バッテリについて

パソコンは、バッテリパックを取り付けた状態で使用してください。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。
バッテリパックを指定する方法・環境以外で使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危険

- **バッテリパックは、本製品に付属の製品を使用する**
  寿命などで交換する場合は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に記載されている、指定の東芝製バッテリをお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発熱、発火、破裂のおそれがあります。

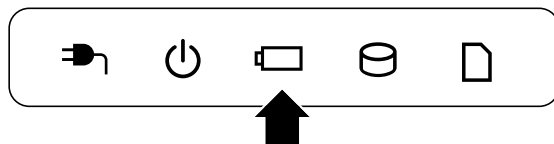
お願い バッテリを使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-6 バッテリについて」を確認してください。

1 バッテリ充電量を確認する

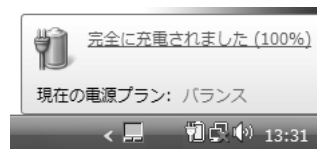
バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery ▭ LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

白	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリの充電について「本節 2 バッテリを充電する」
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリ］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリ］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在の電源プランが表示されます。

参照 省電力設定について《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリ］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ切れの操作］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照 省電力設定（電源オプション）について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power LEDが白色に点灯）	24時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-6-バッテリを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが白色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリ駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するためにACアダプタを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッドスリープについて『準備しよう 1章 4-1 スリープにする』

メモ

- バッテリパックは消耗品です。使いかたを工夫することで長持ちさせることができます。詳しくは《パソコンで見るマニュアル（検索）：バッテリを長持ちさせる》を確認してください。

3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、「スリープ」にするのではなく、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

メモ

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

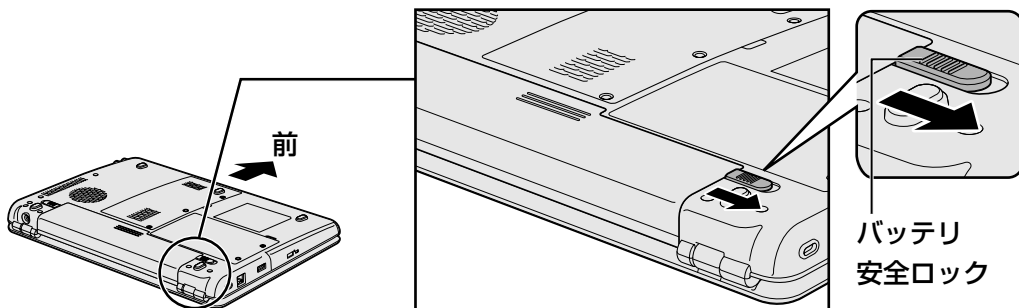
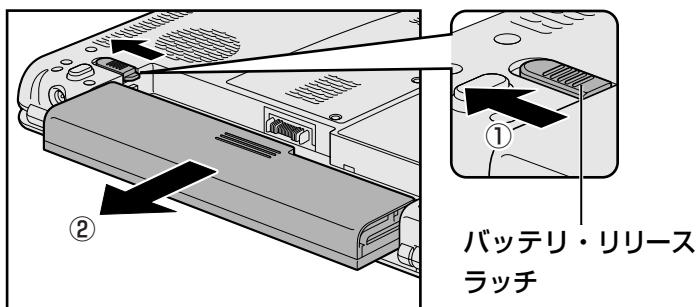
1 取りはずし／取り付け

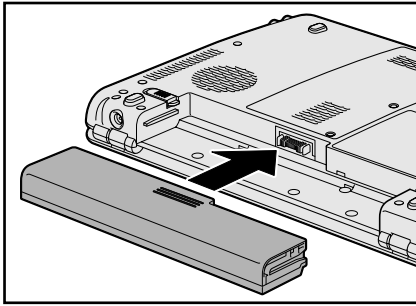
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

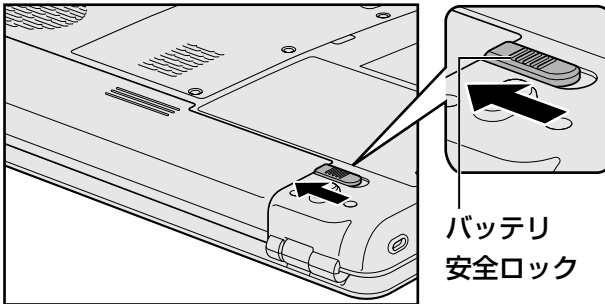
参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-2 電源を切る』

2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ安全ロックを矢印の方向に引く

5 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②

6 交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む

新しいあるいは充電したバッテリパックを、バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして「カチッ」という音がするまで、注意して差し込んでください。

7 バッテリ安全ロックを矢印の方向にスライドする

バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックは必ず行ってください。

5章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows上のユーティリティで変更するか、またはBIOSセットアップで変更するか、2つの方法があります。
通常は、Windows上のユーティリティで変更することを推奨します。

<table>
<tr><th colspan="2">変更できる項目</th><th>Windows上のユーティリティ</th></tr>
<tr><td colspan="2">ハードウェア環境（パソコン本体）の設定</td><td>「東芝HWセットアップ」
参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：システム環境の設定変更》</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パスワードセキュリティの設定</td><td>ユーザパスワード</td><td>「東芝HWセットアップ」
参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザパスワード》</td></tr>
<tr><td>スーパーバイザパスワード</td><td>「スーパーバイザパスワードユーティリティ」
参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》</td></tr>
<tr><td colspan="2">省電力の設定</td><td>「電源オプション」
参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》</td></tr>
</table>

BIOSセットアップについては「本章 2 BIOSセットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOSセットアップを使う

BIOS(バイオス)セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

メモ　BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「電源オプション」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。

参照 「東芝HWセットアップ」「電源オプション」について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：システム環境の設定変更、省電力の設定をする》

参照 「デバイスマネージャ」について「Windowsヘルプとサポート」

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了／BIOSセットアップの操作

1 起動

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『準備しよう 1章 4-2 電源を切る』

2 キーボードの F2 キーを押しながら電源スイッチを押し、「dynabook」画面が表示されてから手をはなす

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

参照 パスワードについて
《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザパスワード、HDDパスワード》

BIOSセットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 2 をやり直してください。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 ← または → キーを押して、［終了］メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 画面の指示に従ってBIOSセットアップを終了する

Windowsが起動します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	← または → 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	↑ または ↓ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューや設定値の一覧を表示する	ENTER
項目の内容を変更する	SPACE 、F5 、F6
設定内容を標準値にする	F9 「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、ENTER キーを押してください。 パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOSセットアップを終了する	F10 「設定の変更を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。保存する場合は「はい」を選択し、ENTER キーを押してください。 BIOSセットアップ終了後、Windowsが起動します。 保存しない場合は「いいえ」を選択し、ENTER キーを押してください。
［終了］メニューを表示する	ESC サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。
BIOSセットアップのヘルプを表示する	F1

3 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサ」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントセキュリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバの解除
- パソコン本体起動時のユーザパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰

など

詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

お願い　指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-8 指紋認証について」を確認してください。

2 Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windows ログオンパスワード」を設定しておく必要があります。
Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、［コントロールパネル］の［ユーザー アカウントと家族のための安全設定］からでも設定することができます。

参照 Windowsセットアップ『準備しよう 1章 3-4 Windowsのセットアップ』

参照 Windowsログオンパスワードの設定方法
『Windowsヘルプとサポート』
《パソコンで見るマニュアル（検索）：Windowsログオンパスワード》

すでにWindowsログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

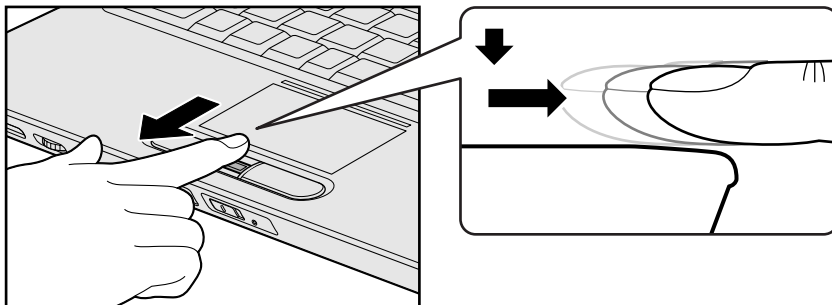
3 指紋を登録する

「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。
指紋センサには、最大21パターンの指紋を登録できます。複数のユーザでパソコンを使用している場合は、全ユーザあわせて21パターン登録できます。例えば1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザが登録できるのは、計11パターンまでです。

指紋センサに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサ中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windowsのユーザアカウントとそのログオンパスワードを登録したあと、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録したWindows ログオンパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

メモ

- Windowsログオンパスワードは指紋認証の代わりに使用できますが、指紋のユーザ登録など一部の機能はWindowsログオンパスワードで代用することはできません。

1 指紋を登録するユーザアカウントでログオンする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TrueSuite Access Manager］→［TrueSuite Access Manager］をクリックする

3 ［Windowsパスワード入力］にWindowsログオンパスワードを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ユーザーの指紋］画面が表示されます。

4 指紋を登録する指をチェックする

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。

なお、［ユーザーの指紋］画面が表示されてから約2分以内に次の操作を行わないと、［認証］画面に戻ります。

［指紋登録］画面が表示されます。

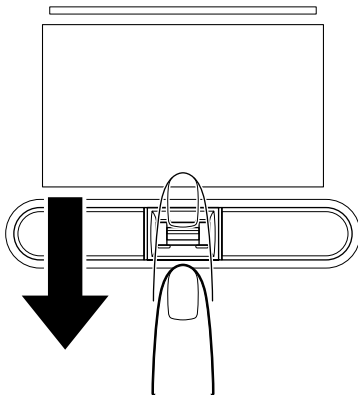
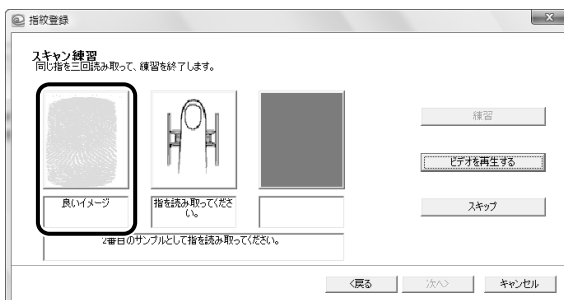
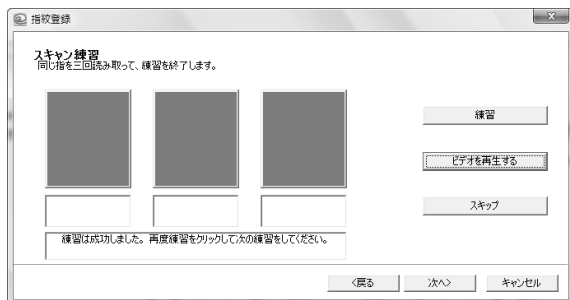
5章 システム環境の変更

5 画面に表示される説明と動画をよく見て、［次へ］ボタンをクリックする

動画は1回再生したあと停止しますが、［ビデオを再生する］ボタンをクリックするともう1度再生されます。

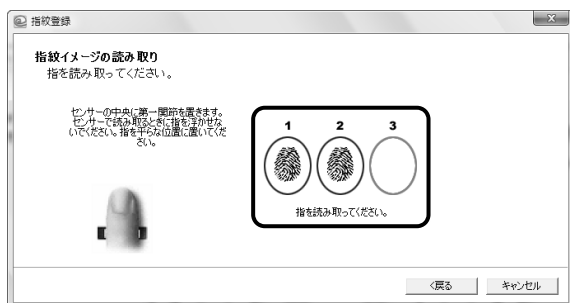
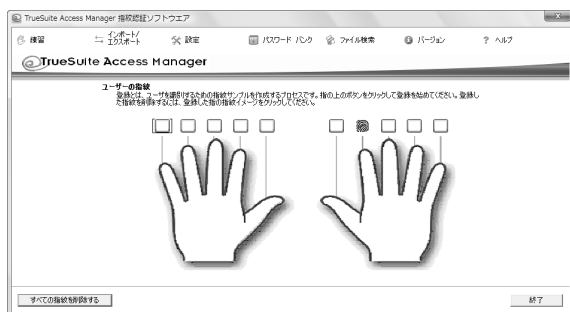
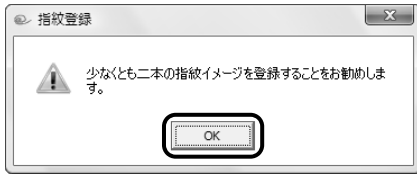
［スキャン練習］画面が表示されます。

6 タッチパッドの真ん中にある指紋センサに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

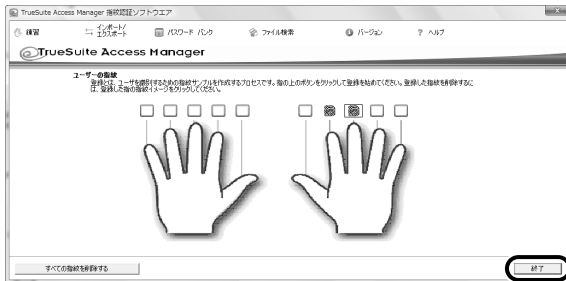
第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。

同じ指を3回認識させてください。指紋センサに指をすべらせると、画面の3つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。3回成功するまで繰り返し認識させてください。

3回とも指紋データの読み取りに成功すると、「練習は成功しました。」と画面下部に表示されます。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

［指紋イメージの読み取り］画面が表示されます。

8 タッチパッドの真ん中にある指紋センサに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
ここで登録指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。
同じ指を3回読み取らせます。1回成功するごとに画面中央の枠に指紋が表示されます。

3回とも指紋の読み取りに成功すると、［ユーザーの指紋］画面が表示され、登録した指を示すボックスに指紋イラストが表示されます。

9 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

10 違う指で手順 4 → 5 → 8 を繰り返す

少なくとも2本の指を登録してください。

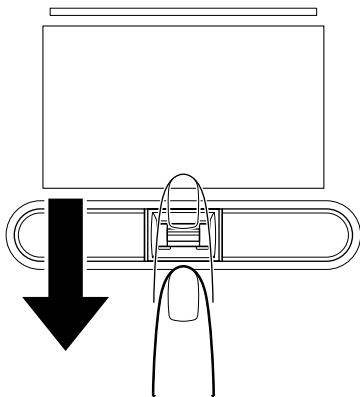
11 ［終了］ボタンをクリックする

4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサに指をすべらせることで、Windowsへログオンできます。
また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンに電源を入れる

Windowsにログオンする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されると画面に［成功しました］と表示され、Windowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、メッセージが表示されます。また指紋認証を連続して5回以上失敗すると、約2分の間、指紋認証を使用できなくなります。指紋認証がうまくいかない場合は、次のように操作してキーボードからパスワードを入力し、Windowsにログオンしてください。

①［ユーザーの切り替え］をクリックする
　ユーザを選択する画面が表示されます。
②ログオンしたいユーザのアイコンをクリックする
　ログオンパスワードを入力する画面が表示されます。
③キーボードからパスワードを入力し、ENTERキーを押す

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■パソコンの起動時（Pre-OS指紋認証）

パソコンの起動時に、ユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。事前にユーザパスワードやHDDパスワードを登録しておいてください。

メモ

- Pre-OS指紋認証を使用するためには、ユーザパスワードの登録が必要です。

参照 ユーザパスワード、HDDパスワードの登録方法
《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザパスワード、HDDパスワード》

また、指紋認証をユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに使用するための設定も必要です。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

ユーザパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い 指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。

■スクリーンセーバの解除

次のように設定します。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] → [デスクトップのカスタマイズ] をクリックする
② [スクリーンセーバーの変更] で [再開時にログオン画面に戻る] をチェックする
＊パソコン本体に複数のユーザが登録されている場合は、[再開時にログオン画面に戻る] が表示されます。

■スリープからの復帰

次のように設定します。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] → [バッテリ設定の変更] をクリックする
② [電源プランの選択] で選択されているプランの [プラン設定の変更] をクリックする
③ [詳細な電源設定の変更] をクリックする
④ [追加の設定] の [復帰時のパスワードを必要とする] で、[バッテリ駆動] および [電源に接続] を [はい] に設定する
⑤ [OK] ボタンをクリックする
各項目を変更できない場合は、画面上部の [現在利用できない設定の変更] をクリックして、ユーザアカウントを許可してください。

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。

参照 指紋データの消去「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

メモ

- Password Bank（インターネットのホームページで指紋認証によるID、パスワードを入力する機能）は、Internet Explorerで動作します。
- Password Bank機能、ファイル暗号化機能を使用する場合は、次の手順でインストールしてから実行してください。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［プログラムのアンインストール］をクリックする
③ ［TrueSuite Access Manager］をクリックする
④ ［変更］ボタンをクリックする
［ようこそ］画面が表示されます。
⑤ ［変更］をチェックして［次へ］ボタンをクリックする
［機能の選択］画面が表示されます。
⑥ 追加したい機能をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする
［メンテナンスの完了］画面が表示されます。
⑦ ［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］をチェックして［完了］ボタンをクリックする
コンピュータが再起動します。

「指紋認証ユーティリティ」を起動し、追加した機能が画面上部に表示されていることを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TrueSuite Access Manager］→［Document］をクリックする

6章

パソコンの動作がおかしいときは

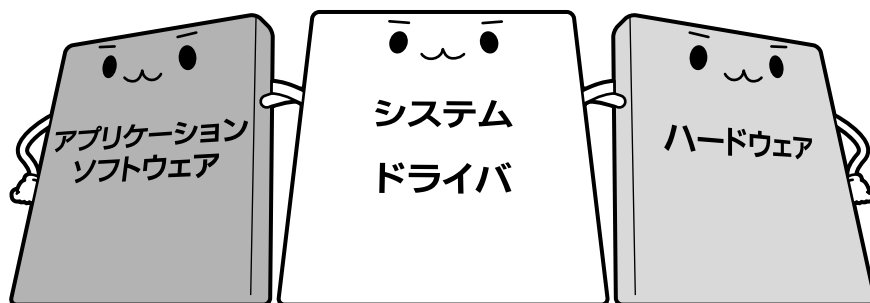
パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**
メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）やExcel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバとは**
システムは、オペレーティングシステム、OSとも言い、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows Vistaです。
ドライバは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバに、ディスプレイドライバやサウンドドライバ、マウスドライバなどがあります。基本的なドライバは、システムが標準装備していますが、周辺機器によっては、専用のドライバが付属している場合があります。

● **ハードウェアとは**
バッテリやACアダプタはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体をさします。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

STEP1 アプリケーションソフトウェアに原因がある場合

トラブル

例1 ： メールやインターネットがつながらない

アクセスポイントやメールサーバ、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダごとに異なります。契約プロバイダから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

解消法

例1 ： プロバイダへのお問い合わせについて

お客様ご契約のプロバイダの窓口へお問い合わせください。

例2 ： アプリケーションの使いかたがわからない

付属のマニュアルや「おたすけナビ」を読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

例2 ： アプリケーションの使いかたについて

『映像と音楽を楽しもう』や「おたすけナビ」で操作方法を確認したり、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 「おたすけナビ」
「本章 2 - 8 - Q このQ&A集を読んでも解決できない」

参照 アプリケーションのお問い合わせ先
「7章 お問い合わせされるときは」

例3 ： どのアプリケーションを使ったらいいかわからない

付属のマニュアルや「おたすけナビ」に、代表的な操作を記載しています。

例3 ：「おたすけナビ」でアプリケーションを探す

「おたすけナビ」の「ソフトウェアをつかう」で、本製品に用意されたアプリケーションを目的別に探すことができます。

STEP2 OSやドライバに原因がある場合

トラブル

例4 ： 正常に画面が表示されない、音が出ない、設定が合っているのにインターネットにつながらない

例5 ： 青い画面で「STOPOX*****」（一般に「STOPエラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」と呼ばれる画面）が表示された**

解消法

例4・例5：
ドライバを入れ直す

再起動をすると自動的にドライバの検出を行う場合があります。再起動後、［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

参照 再起動
《パソコンで見るマニュアル（検索）：パソコンを再起動する》

例5 ： 動作に影響を与えているアプリケーションや周辺機器を調べる

周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解消される場合が少なくありません。
周辺機器を取りはずしたり、「システム構成ユーティリティ」でプログラムやサービスを停止して起動したりすることで調べることができます。

参照 システム構成ユーティリティ
《パソコンで見るマニュアル（検索）：必要最低限のシステムで起動する》

それでもトラブルが解消しない場合には、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

STEP3 パソコン本体に原因がある場合

トラブル

解消法

例6 ： ドライバを入れ直しても機器が動かない

例6：リカバリ（再セットアップ）する

パソコン本体が動作する場合は、「リカバリ（再セットアップ）」を行ってください。「リカバリ」は、ハードディスクのデータが消えるため、バックアップを行うことをおすすめします。

参照 バックアップをとる
『準備しよう 4章 大切なデータを失わないために』

参照 リカバリ
『準備しよう 5章 買ったときの状態に戻すには』

例7 ： 電源ランプが点灯せず、パソコンがまったく動作しない。

それでもトラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動作しない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。
パソコンの操作について、困ったときや修理のご依頼は東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 付属の冊子マニュアルを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、本製品には目的別に複数の冊子マニュアルがあります。本書以外の冊子も読んでください。

STEP2「Q&A集」や「便利な使いかた」から探す

「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」や「便利な使いかた」にも、使っていて操作がおかしいと感じたときの対処法が載っています。また、ちょっと便利な使いかたもQ&A形式で載っています。
「パソコンで見るマニュアル」は、本製品の電源を入れた状態で、デスクトップ上の［おたすけナビ］（おたすけナビ）をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックすると起動できます。

STEP3 ヘルプやマニュアルから探す

「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」の検索機能を使って、本製品に用意されているアプリケーションのヘルプやマニュアルを検索して調べることができます。

参照 「パソコンで見るマニュアル」と「おたすけナビ」のヘルプの起動方法
「本章 2-8-Q このQ&A集を読んでも解決できない」

STEP4 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「あなたのdynabook.com」へ接続し、各種サポート情報から解決方法を探します。

参照 あなたのdynabook.com「本節 3-1「あなたのdynabook.com」を見る」

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は「7章 お問い合わせされるときは」で確認してください。

3 トラブル事例を見てみる

1「あなたのdynabook.com」を見る

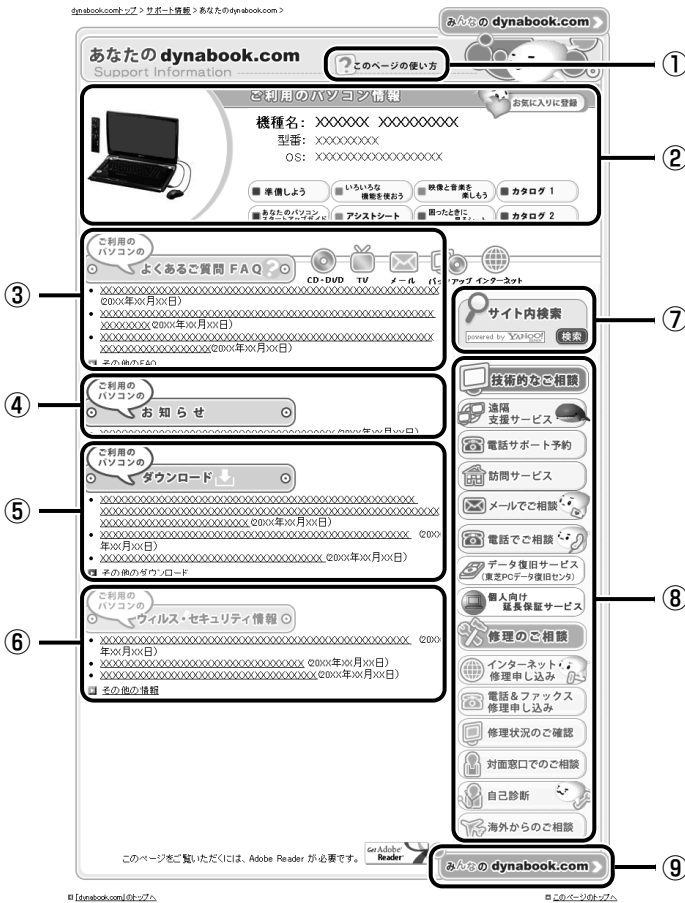
「あなたのdynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

「あなたのdynabook.com」は、次の方法で表示できます。

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし、［インターネット］をクリックする

「Internet Explorer」が起動します。
購入時の状態では、起動して最初に「あなたのdynabook.com」が表示されるように設定されています。

参照 インターネットの接続について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：インターネットへの接続と設定》

＊「あなたのdynabook.com」に表示されるボタン・内容は機種によって異なります。
本書に記載している画面は、表示例です。

（表示例）

①このページの使い方
クリックすると、「あなたのdynabook.com」の使いかたを紹介したページが表示されます。

②ご利用のパソコン情報
ご利用のパソコンの情報やマニュアルなどが表示されます。

③よくあるご質問 FAQ
日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。
タイトルの右にあるカテゴリのアイコンをクリックすると、そのカテゴリに関するFAQだけを表示できます。
④お知らせ
⑤ダウンロード
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
⑥ウイルス・セキュリティ情報
⑦サイト内検索
キーワードを入力して、サイト内を検索します。
⑧技術的なご相談/修理のご相談
サポート窓口や修理窓口のページにアクセスできます。
⑨［みんなのdynabook.com］ボタン
クリックすると、東芝パソコン全体のサポート情報のページが表示されます。

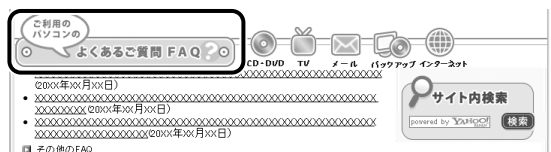
メモ

「あなたのdynabook.com」は、ガジェットの［dynabookランチャー］のメニューからも表示できます。
をクリックすると、説明の画面が表示されますので、
「http://dynabook.fresheye.com/cgi-bin/login.cgi」をクリックしてください。メッセージが表示された場合は、画面に従ってください。

2 東芝パソコンのサポート情報ページを見る

「あなたのdynabook.com」では本製品の「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

■パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 FAQ」

「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

［ご利用のパソコンのよくあるご質問 FAQ］をクリックすると、［カテゴリ（かんたん）検索］画面が表示されます。

6章 パソコンの動作がおかしいときは

カテゴリ（かんたん）検索では、条件を選択すると解決方法を検索できます。

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

■メールで質問する「東芝PCオンライン」

「よくあるご質問 FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24時間365日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 『準備しよう 6章 1-1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ』

1 「よくあるご質問 FAQ」で解消方法を探す

2 「A. 回答・対処方法」の説明のあとのアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

3 ［送信］ボタンをクリックする

東芝PCオンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝PCオンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。
質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。
このほか、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて「7章 お問い合わせされるときは」

■モジュールのダウンロード

本製品のデバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
［ご利用のパソコンのダウンロード］をクリックすると、［キーワード検索］画面が表示されます。キーワード検索では、キーワードや文章を入力すると、モジュールの情報が検索、一覧表示されます。
OSをアップグレードしたい場合は、OSに合ったモジュールをダウンロードしてください。

（表示例）

メモ

- 東芝パソコン全体のサポート情報は、「dynabook.com」の「サポート情報」ページでご覧になれます。
  URL：http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm
- 相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、『準備しよう 6章』や『東芝PCサポートのご案内』に詳しく紹介されています。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、「パソコンで見るマニュアル」にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、「パソコンで見るマニュアル」も参照してください。

役立つ操作集

「便利な使いかた」や「Q&A集」を見てみよう

本書のQ&A集を見ても知りたいことが見つからない場合は、パソコンで「パソコンで見るマニュアル」の「便利な使いかた」や「Q&A集」を見てみましょう。
インターネットに接続しなくても閲覧できるため、操作も簡単です。

① デスクトップ上の［おたすけナビ］（ おたすけナビ ）をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックする
「パソコンで見るマニュアル」が起動します。

② ［便利な使いかた］（ 便利な使いかた ）または［Q&A集］（ Q&A集 ）をクリックする
［便利な使いかた］または［Q&A集］の一覧が表示されます。

③ もくじから知りたい項目をクリックする

④ 参照したい質問をクリックする

1 電源を入れるとき／切るとき

Q 電源スイッチを押してもPower LEDが点灯しない

A 電源スイッチを2秒間押したあと、指をはなすと電源が入ります。
Power LEDが白色に点灯することを確認してください。

Q 電源が入るが、すぐに切れてしまう 電源が入らない

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「4章 1-2 バッテリを充電する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりにはものを置かないでください。

A パソコン本体からいったん、電源コードとACアダプタ、バッテリパックをすべて取りはずしてください。

①電源コードとACアダプタを取りはずす
パソコンに接続している周辺機器も取りはずしてください。
②バッテリパックを取りはずす
電源コードとACアダプタ、バッテリパックを取りはずすと、電源が入らない状態になります。そのままの状態で、しばらく放置してください。
③バッテリパックを取り付ける
④電源コードとACアダプタを取り付けて、電源プラグをコンセントに差し込む
⑤電源スイッチを約2秒間押し、指をはなす

参照 電源コードとACアダプタの接続
『準備しよう 1章 3-2 電源コードとACアダプタを接続する』

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずしについて
「4章 1-3 バッテリパックを交換する」

以上の手順でも解決できない場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていない記録メディアがセットされている可能性があります。

システムが入っている記録メディアと取り替えるか、またはドライブから記録メディアを取り出してから、何かキーを押してください。
それでも正常に起動しない場合は、次のように操作してください。

①電源スイッチを5秒以上押して電源を切る
② F12 キーを押しながら、電源スイッチを押す
③「dynabook」画面が表示されたら、 F12 キーから手をはなす
④表示されたメニューからシステムの入っているドライブ（通常はHDD）を ↑ ↓ キーで選択し、 ENTER キーを押す

A 次の手順を行うと、セーフ モードまたは前回正常に起動したときの構成で起動しなおすことができます。

電源スイッチを5秒以上押して強制終了した後、次のように操作してください。

①電源を入れる
②「dynabook」画面が表示されて消えたらすぐに、 F8 キーを数回押す
「詳細ブート オプション」が表示されます。
③目的に合わせて［セーフ モード］または［前回正常起動時の構成（詳細）］を選択し、 ENTER キーを押す

Q 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりにはものを置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A バッテリ駆動で使用している場合、バッテリの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
  （他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「4章 1-2 バッテリを充電する」

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LEDが白色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFT キーや CTRL キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。
外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power LEDがオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスリープまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスリープまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ システムとメンテナンス］→［ 電源オプション］をクリックする
③ 利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
④ ［ディスプレイの電源を切る］および［コンピュータをスリープ状態にする］で［なし］を選択する
［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑤ ［変更の保存］ボタンをクリックする

2 画面／表示

Q 青い画面（ブルースクリーン）が表示され、操作できなくなった

A 電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本節 3-Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーや CTRL キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN + F5 キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「3章 4-2 表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、「3章 4 パソコンの画面にテレビを映す」を参照して、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定して拡張表示の設定をした場合に、スリープや休止状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。
テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1

FN＋F6キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
FNキーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定は元に戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳細は、「電源オプション」のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。＊1

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする
② [システムとメンテナンス] → [電源オプション] をクリックする
③ 利用する電源プランを選択し、[プラン設定の変更] をクリックする
④ [ディスプレイの輝度を調整] を設定する
　[バッテリ駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

3 システム／ハードディスク

Q パソコンが応答しなくなった

A アプリケーションを終了できない場合や、アプリケーションを終了してもトラブルが解消しない場合は、パソコンを再起動してください。

参照 再起動『準備しよう 1章 4-2-再起動』

A Windows起動時に問題が起きた場合や、パソコンを再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本項-Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q Windowsがセーフ モードで起動した

A パソコンを再起動してください。

参照 再起動『準備しよう 1章 4-2-再起動』

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本項-Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A ドライバやシステムのアップデート中（更新中）にトラブルが発生した場合は、直前の正常に起動したときの構成で起動してください。

参照 前回正常に起動したときの構成で起動する
「本節 1-Q 電源を入れたが、システムが起動しない」

A アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 アンインストール《パソコンで見るマニュアル（検索）：アプリケーションの削除》
『アプリケーションに付属の説明書』

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバやアプリケーションをパソコンにインストールしている場合があります。これらのドライバやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属の説明書』

4 キーボード

Q ポインタが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す

［タッチパッド］のカードが表示されます。

② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

5 タッチパッド／マウス

＊マウスは、ご購入のモデルによっては別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
②［ マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③［ボタン］タブで［ダブルクリックの速さ］のスライダーバーを左右にドラッグする
④［OK］ボタンをクリックする

Q ポインタの速度を調節したい

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
②［ マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③［ポインタ オプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
④［OK］ボタンをクリックする

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインタがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

6 指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう一度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「5章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「5章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「5章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「5章 3 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、ほかの指で登録してください。

参照 詳細について「5章 3 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第1関節がくるように置き、すべらせるときはゆっくりと一定の速さですべらせてください。それでも認証できない場合は、指をすべらせる速さを調整してください。

参照 詳細について「5章 3 指紋認証を使う」

7 メッセージ

Q 「パスワードを入力して下さい。」と表示された

A 「東芝HWセットアップ」またはBIOSセットアップで設定したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

パスワードを忘れた場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

Q 電源を入れたとき、「認証のため、指でセンサをなぞってください。BIOSパスワードを入力するにはBACKSPACEを押してください」と表示された

A 指紋認証が必要です。

「指紋認証ユーティリティ」でPre-OS指紋認証機能を有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示される「パスワードを入力して下さい。」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、Pre-OS指紋認証機能によってパスワードの認証が行われます。

認証を5回失敗する、または BACKSPACE キーを押すと、「パスワードを入力して下さい。」が表示されます。指紋認証について詳しくは、「5章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 「HDDパスワードを入力して下さい。」と表示された

A BIOSセットアップで設定したHDDパスワードを使って認証を行ってください。

次の操作を行ってください。

①HDDパスワードを入力し、ENTER キーを押す

HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合は有償です。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q 起動時に「Windows再開ローダ」が表示され、Windowsが起動しない

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のまま増設メモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。

電源を切る前の状態は再現できません。

次の操作を行ってください。

①「Windows再開ローダ」で「復元データを削除してシステムブートメニューに進む」が反転表示していることを確認し、ENTER キーを押す

②「Windowsエラー回復処理」で「Windowsを通常起動する」が反転表示していることを確認し、ENTER キーを押す

Windowsが起動します。

Q 起動時に「ERROR 0271：Check data and time settings … Press <F1> to resume, <F2> to Setup」と表示され、Windowsが起動できない

A 時計用バッテリが不足しています。

時計用バッテリは、ACアダプタを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリについて「4章 1-1-3-時計用バッテリ」

ACアダプタを接続後、次の手順でBIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

① F2 キーを押す
　BIOSセットアップ画面が表示されます。
②［メイン］メニューの［言語：］で［日本語（JP)］を選択する
③ F9 キーを押す
　確認のメッセージが表示されます。
④［はい］を選択し、ENTER キーを押す
　BIOSセットアップが標準設定の状態になります。
⑤［メイン］メニューの［システム時刻：］で時刻を設定する
⑥［メイン］メニューの［システム日付：］で日付を設定する
⑦ F10 キーを押す
　確認のメッセージが表示されます。
⑧［はい］を選択し、ENTER キーを押す
　BIOSセットアップが終了し、パソコンが再起動します。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Update やアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について『Windowsヘルプとサポート』

Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」
- 「NTLDR is missing Press any key to restart」

A フロッピーディスクなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

8 その他

Q イルミネーションLEDを消灯したい

A 次の手順で、イルミネーションLEDを消灯に設定してください。

「東芝HWセットアップ」で、イルミネーションLED（ロゴLED、タッチパッドイルミネーションLED、ボタンバックライトLED）の点灯と消灯を設定することができます。

① [スタート] ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

「東芝HWセットアップ」が起動します。

② [イルミネーション] タブをクリックし、[イルミネーション] の［OFF］をチェックする

点灯させるときは［ON］をチェックしてください。

③ [OK] ボタンをクリックする

イルミネーションLEDが消灯します。

Q ハードディスクからリカバリできなくなったときは

A ハードディスクドライブに搭載されているリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。
また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成したリカバリディスクを使って、リカバリしてください。

参照 リカバリの操作方法
『準備しよう 5章 2-3 リカバリディスクからリカバリをする』

リカバリディスクがない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから東芝PCあんしんサポートに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q このQ&A集を読んでも解決できない

A このほかにもいろいろな解決方法があります。

1「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」や「便利な使いかた」を見る

本書のQ&A集は、パソコンの電源が入らないなど、「パソコンで見るマニュアル」を見られない状況でのQ&Aのみ記載しています。「パソコンで見るマニュアル」の「Q&A集」には、このほかにも困ったことが起きた場合の対処方法を記載しています。また「便利な使いかた」は、文字入力やインターネット、メールの使いかたで知っておくと便利な設定、手順をQ&A形式で記載しています。「パソコンで見るマニュアル」が見られる場合は、確認してみてください。

「パソコンで見るマニュアル」を起動し、[Q&A集] または [便利な使いかた] をクリックすると、Q&Aの一覧が表示されます。

参照 「パソコンで見るマニュアル」の起動方法『困ったときに見るシート』

2「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」で調べる

「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」には、パソコン内の電子マニュアルで、検索する機能があります。知りたい内容がこのQ&A集に載っていない場合は、「パソコンで見るマニュアル」や「おたすけナビ」で検索してみてください。詳細は「パソコンで見るマニュアル」または「おたすけナビ」のヘルプを参照してください。

- 「パソコンで見るマニュアル」のヘルプの起動方法

  ① デスクトップ上の [おたすけナビ]（おたすけナビ）をダブルクリック→ [パソコンで見るマニュアル] タブの [パソコンで見るマニュアルTOP] ボタンをクリックする

  ② [このマニュアルの使いかた] をクリックする

- 「おたすけナビ」のヘルプの起動方法

  ① デスクトップ上の [おたすけナビ]（おたすけナビ）をダブルクリックする

  ② [ヘルプ] をクリックする

6章 パソコンの動作がおかしいときは

3「あなたのdynabook.com」や「dynabook.com」の「よくあるご質問 FAQ」を調べる

インターネットに接続できるときは、東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」でサポート情報を見てください。お問い合わせの多い質問やホットなQ&Aが掲載されています。

参照 dynabook.com「本章 1-3 トラブル事例を見てみる」

「A．回答・対処方法」の説明を読んでも問題が解決しない場合は、説明の後のアンケートに引き続き、質問メールを出すこともできます。

＊メールでの質問には「お客様登録」が必要です。

4 東芝PCあんしんサポートに電話する

パソコン本体のトラブルは、東芝PCあんしんサポートでお答えします。『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

参照 東芝PCあんしんサポート『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 アプリケーションのお問い合わせ先「7章 お問い合わせされるときは」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

7章

お問い合わせされるときは

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

1 お問い合わせ先 －OS／アプリケーション－

＊2009年2月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

1 OSのお問い合わせ先

Windows Vista® についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows Vista® に関する一般的なお問い合わせは、東芝PCあんしんサポートになります。

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。
インストールされているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

Microsoft Office Excel／Microsoft Office Outlook／Microsoft Office PowerPoint／Microsoft Office Word／Microsoft Office ナビ
マイクロソフト無償サポート 〈TEL〉 TEL：東京：03-5354-4500 ：大阪：06-6347-4400 ：0120-09-0196 ※次の情報をお手元に用意してご連絡ください。 郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID 詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。 〈受付時間・お問い合わせ回数〉 ●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ 受付時間：9:30～12:00、13:00～19:00（平日） 10:00～17:00（土曜日、日曜日） （マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます） 回数：指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間：9:30〜12:00、13:00〜19:00（平日）
10:00〜17:00（土曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）

無償サポート回数：Microsoft Office Personal 2007（Word/Excel/Outlook/Officeナビ）は4インシデント、Microsoft Office PowerPoint 2007は2インシデントとなります。

お問い合わせに関する詳細は、Microsoft Office Personal 2007およびMicrosoft Office PowerPoint 2007の『スタートガイド』をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL：http://support.microsoft.com/

※電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。

備考：マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。

答えてねっと：http://www.kotaete-net.net/

ウイルスバスター2009 90日版

ウイルスバスターサービスセンター

受付時間：9:30〜17:30

TEL：0570-008326
03-5334-1035（IP電話・光電話からのお問い合わせ）

ホームページ：http://tmqa.jp/toshiba/

マカフィー・サイトアドバイザプラス

マカフィー・テクニカルサポートセンター
（サイトアドバイザプラスに関する技術的な問い合わせ）
受付時間　：9:00～21:00（年中無休）
TEL　：0570-060-033（ナビダイヤル）
03-5428-2279（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。
http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter.asp
ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/

マカフィー・カスタマーオペレーションセンター
（サイトアドバイザプラスに関するユーザ登録や登録情報変更などの製品以外に関するお問い合わせ）
受付時間　：月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く）
TEL　：0570-030-088（ナビダイヤル）
03-5428-1792（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。
http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter.asp
ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/

マカフィー・インフォメーションセンター
（製品購入前の製品に関するお問合せ、サイトアドバイザプラスでのサイト評価に関する問い合わせ）
受付時間　：月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く）
TEL　：0570-010-220（ナビダイヤル）
03-5428-1899（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail　：以下のWebフォームをご利用ください。
http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/msup/information_center.asp
ホームページ：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/SA/

マカフィー・テクニカルサポートセンターではチャットによるサポートもご提供しています。
チャット　：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp

ATOK 2009 for Windows（60日間無償試用版） for TOSHIBA

●無償試用版の使い方に関するお問い合わせ
ジャストシステム 期間限定版専用サポート
受付時間　：平日10:00～17:00（土日祝、特別休業日を除く）
TEL　：088-666-1523
ホームページ：http://support.justsystems.com/

FeliCa Secure Client／SFCard Viewer／FeliCaブラウザエクステンション／FeliCaポート自己診断／NFRM PC Viewer／シンプルログオン／スクリーンセーバーロック2／パーソナルシェルター／かざしてナビ／かんたん登録2

●ユーザー登録に関するお問い合わせ

ユーザー登録ご相談窓口

受付時間　：平日 10:00～19:00、土・日・祝日 10:00～17:00（特別休業日を除く）
TEL　：東京 03-5412-2624　大阪 06-6886-2624
ホームページ：http://www.justsystems.com/jp/service/

●製品の使い方に関するお問い合わせ

ジャストシステムサポートセンター

※サポートセンターへお問い合わせの際には、お客様のUser IDおよび製品のシリアルナンバーが必要です。

受付時間　：平日 10:00～19:00、土・日・祝日 10:00～17:00（特別休業日を除く）
TEL　：東京 03-5412-3980　大阪 06-6886-7160
ホームページ：http://support.justsystems.com/

EdyViewer

Edy救急ダイヤル

受付時間　：平日　9:30～19:00　土・日・祝祭日　10:00～18:00
TEL　：0570-081-999（044-520-1761）
E-mail　：info@bitwallet.co.jp
ホームページ：http://www.edy.jp/

BroadNewsStreet

ニューズウォッチ

受付時間　：平日 10:00～17:00
（土、日、祝日、およびニューズウォッチが別途定める日はサポートの対象外となります。）
E-mail　：toshibapc@newswatch.co.jp
ホームページ：http://www.newswatch.co.jp/bns/toshibapc/

ebi.BookReader3J

株式会社 イーブック イニシアティブ ジャパン eBookJapanサポートセンター

https://www.ebookjapan.jp/bpct/support/
受付時間　：10:00～18:00（土日祝日除く）
E-mail　：support@ebookjapan.co.jp
ホームページ：http://www.ebookjapan.jp/bpct/

FlipViewer／FlipBook
イーブック・システムズ株式会社　FlipViewerサポート 受付時間　：月～金（祝日除く）10:00～17:00 E-mail　：fv-support@ebooksystems.co.jp ※メールのみの対応となります。 ホームページ：https://secure.ebooksystems.co.jp/support/FV-contact.php

Google ツールバー／Google デスクトップ
ホームページ：Google ツールバー http://www.google.co.jp/support/toolbar/ Google デスクトップ http://desktop.google.com/support/?hl=ja

i-フィルター5.0
デジタルアーツ株式会社　サポートセンター 受付時間　：平日10:00～18:00　土・日・祝日 10:00～20:00 （弊社指定休業日を除く） TEL　：平日03-3580-5678　土・日・祝日 0570-00-1334 よくある質問：http://www.daj.jp/faq/ ユーザーサポートお問い合わせフォーム ：http://www.daj.jp/ask/

DVD MovieWriter for TOSHIBA
コーレル株式会社　インタービデオ　テクニカルサポート お問い合わせの前にホームページ（http://www.corel.jp/support/）をご確認ください。 当製品の無償サポート期間は、ご購入後１年間となります。 受付時間　：月～金 10:00～12:00、13:30～17:30 （12:00～13:30、土日祝祭日、ならびに弊社指定休業日を除く） TEL　：045-226-3899 FAX　：045-226-3895 E-mail　：メールでのお問い合わせは、以下のURLに掲載されている専用のメールフォームをご利用ください。 http://www.corel.jp/support/ ホームページ：http://www.corel.jp/

WDLCガジェット

マイクロソフト株式会社

マイクロソフト Windows Live ホームページ上で情報を公開しています。
http://go.windowslive.jp/photogadget/support/

駅探エクスプレス

駅探エクスプレスサポート

受付時間　：メールのため受付時間の制限はありません。

※webmasterからの返信は、基本的に平日（10:00～18:00）の対応とさせていただいております。
また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

E-mail　：express-support@ekitan.com
ホームページ：http://express.ekitan.com/

デジタル全国地図 its-mo Navi

ゼンリンデータコム　お客様相談室

受付時間　：10:00～17:00　月～金（祝日・弊社指定休日は除く）
E-mail　：itsmo_navi@zenrin-datacom.net
ホームページ：http://www.zmap.net/contactus/index.html

ナップスターアプリ

ナップスタージャパン株式会社　カスタマーサポート

E-mail　：support@napster.jp
ホームページ：http://www.napster.jp/support

＊会員専用問い合わせフォーム（ナップスターアプリ内）および一般向け問い合わせフォーム（http://www.napster.jp/helprequest_form.html）を用意しております。

筆ぐるめ

富士ソフト株式会社　インフォメーションセンター

受付時間　：9:30～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日・休業日を除く）
11月1日から12月30日までは無休
TEL　：03-5600-2551
FAX　：03-3634-1322
E-mail　：users@fsi.co.jp
ホームページ：http://info.fsi.co.jp/fgw/

まいにちがたからもの	
旺文社キッズサポート	
受付時間	：平日9:00～18:00
TEL	：0120-525-415
FAX	：03-3266-6291
E-mail	：takara@m.ochan55.jp
ホームページ	：http://ochan55.jp/

乗換案内 VER.5	
ジョルダン株式会社 乗換案内ユーザーサポート	
受付時間	：平日 10:00～12:00、13:00～17:00　＊平日のみ
TEL	：03-5369-4055
FAX	：03-5369-4064
E-mail	：norikae@jorudan.co.jp
ホームページ	：http://norikae.jorudan.co.jp
2009年12月31日までの間、乗換案内のユーザー登録をしたお客様に限り1回のみインターネット経由で最新の時刻表を含むプログラムにアップデートしていただくことが可能です。インターネット環境がないお客様は、最新の時刻表を含むプログラムCD-ROMを1,260円（消費税および送料込）にて1回のみご購入いただけます。	

スカパー！Netてれび	
スカパー！Netてれび　カスタマーサポート係	
受付時間	：平日（土、日、祝日を除く）10:00～17:00
TEL	：03-5287-2940
ホームページ	：http://wmcnet.skyperfectv.co.jp/contact/

Adobe Reader／CD/DVD静音ユーティリティ／ConfigFree／dynabookランチャー／Internet Explorer／Java™ 2 Runtime Environment／LaLaVoice／PC引越ナビ／TOSHIBA Disc Creator／TOSHIBA DVD PLAYER／TOSHIBA Flash Cards／TOSHIBA Recovery Disc Creator／TOSHIBA Smooth View／Windows Live Messenger／Windows Media Center／Windows Media Player／Windows フォト ギャラリー／Windows ムービー メーカー／Windows メール／おたすけナビ／ササッとサーチ／指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントセキュリティ）／動画で解決！操作ガイド／動画で学ぶ Office Personal 2007／動画で学ぶ Office PowerPoint 2007／動画で学ぶ Windows Vista／動画で学ぶ YouTube／動画で学ぶ デジカメ活用／東芝DVD-RAMユーティリティ／東芝HDDプロテクション／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／東芝SDメモリカードフォーマット／東芝サービスステーション／東芝省電力／東芝ファイルレスキュー／東芝ボタンサポート／東芝無線LAN5GHz有効無効ツール／はじめてガイド／パソコンで見るマニュアル／ぱらちゃん／無線LANらくらく設定
東芝（東芝PC あんしんサポート） 全国共通電話番号 ：0120-97-1048（通話料・電話サポート料無料） おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。 技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で [1] をプッシュしてください。 技術相談窓口　受付時間：9:00～19:00（年中無休） [電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください] 海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。 システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝PCあんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm）にてお知らせいたします。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

機器への強い衝撃や外圧について

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。
- パソコンの表面を硬いものでこすると傷がつくことがあります。
  取り扱いにはご注意ください。

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。
  タッチパッドが故障するおそれがあります。

2 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk ⊖ LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任を一切負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

3 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「1章 4-3- CD／DVDが出てこない場合」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。これら以外のCD／DVDは使用できません。

4 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 4- 7 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピュータすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

5 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。3章および《パソコンで見るマニュアル》の「パソコンの設定」にある「周辺機器を使う」を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および《パソコンで見るマニュアル》で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

メモリの増設の操作にあたって

- 必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。
- スロットA（下段）のメモリがはずれている状態では、本製品は使用できません。
  必ずスロットA（下段）にメモリが取り付けられている状態で使用してください。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スリープ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スリープ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

❏ 静電気について

- 増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには本機能を有効にする必要があります。
  有効に設定する方法は、次のとおりです。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする
  ［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。
  ②［USB］タブの［スリープ時のUSB充電］で［有効にする(Mode1)］をチェックする
  通常は［有効にする(Mode1)］に設定してください。［有効にする(Mode1)］で本機能を使用できない場合は、［有効にする(Mode2)］に設定を変更してください。
  ③［OK］ボタンをクリックする
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続せず常時給電に対応したUSBコネクタに外部機器を接続した場合でも、USBコネクタからの常時給電が行われます。このためパソコンの電源がOFFの状態でもバッテリが消費されますので、ACアダプタを接続してお使いになることをおすすめします。
- パソコン本体の電源ON／OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。

付録

- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を500mA以下にしてください。
  その後、パソコン本体の電源をON／OFFすることで復帰します。
- 「東芝HWセットアップ」の設定で、本機能の設定が「有効にする」になっていると、「USB WakeUp 機能」＊1 が機能しません。
  この場合、「東芝HWセットアップ」で本機能の設定を「無効にする」に変更してください。
  ＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能はOSがWindows Vistaの場合、すべてのUSBコネクタで有効です。

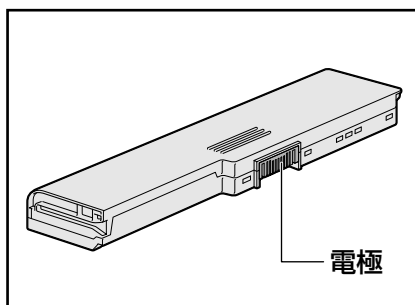
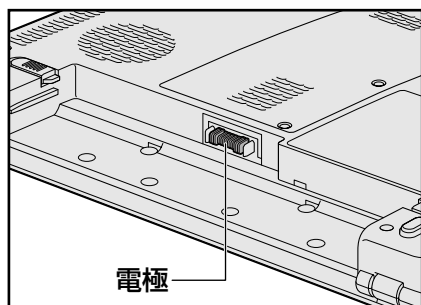
テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビとの接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビへの表示は保証できません。テレビによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示またはサウンド出力が切り替わることがあります。

付録

6 バッテリについて

バッテリを使用するにあたって

- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スリープを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

- バッテリパックをパソコン本体に取り付けるときは、しっかりと取り付けられているか、必ず確認してください。
  正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリパックがはずれて落ちるおそれがあります。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続してバッテリと時計用バッテリを充電してください。

バッテリを充電するにあたって

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリは5〜35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

7 FeliCaポートについて

FeliCaポートの操作にあたって

- FeliCaポートの位置を示すマークは、FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をかざす際の指示となるものです。誤ってはがさないようご注意ください。
- すべてのFeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話について、本製品のFeliCaポート上での動作確認を行っていません。
  したがって、すべてのFeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をFeliCaポートにかざしたときの動作は保証できません。
- 本製品のFeliCaポートは、電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信装置です。
- FeliCaポートにFeliCa対応カードなどを強くたたきつけたり、落としたりすると故障の原因になります。
- FeliCaポートが正常に動作しない場合は、不具合があるか確認してください。
  ①ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにする

  参照 「1章 7-1 FeliCa対応カードをかざす」

  ②「かざしてナビ」のポーリングをオフにする

  参照 「本節 7-ポーリングについて」

  ③［スタート］ボタン→［すべてのプログラム］→［FeliCaポート］→［FeliCaポート自己診断］をクリックする
  表示される画面に従って、確認してください。

付録

ポーリングについて

FeliCaポート上にFeliCa対応カードがかざされているかどうか、FeliCaポートがチェックする動作をポーリングといいます。

通知領域の［かざしてナビ］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、ポーリングが行われているときは「開始」、行われていないときは「停止」または「切断中」と表示されます。
「かざしてナビ」のポーリングの状態は、次の手順で変更できます。
①通知領域の［かざしてナビ］アイコンを右クリックする
②表示されたメニューから［ポーリングの状態］→［オン］または［オフ］をクリックする
［オフ］をクリックすると、ポーリングを停止します。
ポーリングが行われていないと、FeliCa対応カードをかざしても、「かざしてナビ」は起動しません。

ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフにすると、ポーリングは一切行われなくなります。FeliCaポートを使用するときは、スイッチをオンにしてください。

暗証番号・パスワードについて

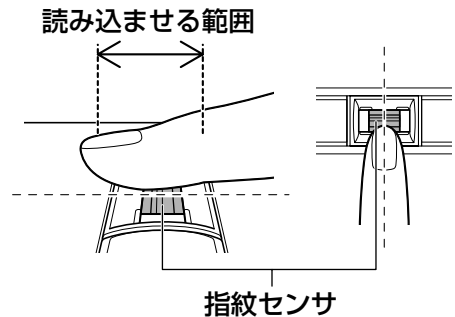
FeliCa対応カードおよびFeliCa対応携帯電話で提供されている電子マネーなどのサービスは、現金やクレジットカードなどと同等の価値があります。カードの暗証番号や各サービスを受ける際のパスワードについては、他人に知られないように取り扱いに注意してください。
暗証番号やパスワードの漏えいによってサービスの不正利用が行われた場合の損害について、当社は一切の責任を負いません。

8 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

● 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
・指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
・指紋センサ表面を強く押す
・濡れた手で指紋センサ表面を触る
指紋センサの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサ表面を触る
砂などの小さい物でも、指紋センサを傷つける場合があります。
・指紋センサ表面にシールなどをはる
・指紋センサ表面に鉛筆やボールペンなどで書く
・指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る

- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサの上に第1関節がくるように置く
  - ・すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサ表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する

- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windowsログオンパスワードの設定について

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザアカウントがほかにあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザアカウントがない場合は、リカバリをしてください。リカバリをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：Windowsログオンパスワード》

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

9 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「付録 5-6 使用できる国／地域について」を確認してください。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカ

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』で記録メディアの使用推奨メーカを確認してください。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。

付録

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカ

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』で記録メディアの使用推奨メーカを確認してください。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、記録メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データや記録メディアが壊れるおそれがあります。
- 記録メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく差し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、記録メディアが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、記録メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- 記録メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、記録メディアが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットから記録メディアを取り出してください。ブリッジメディアスロットや記録メディアが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプタを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプタに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

3 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプタを装着した状態で行ってください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプタに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（フロッピーディスク、半導体メモリ、CD、DVDなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 技術基準適合について

「パソコンで見るマニュアル」にも技術基準適合に関する説明が記載されています。本書だけでなく、「パソコンで見るマニュアル」の記載もあわせてご確認ください。

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■電波障害自主規制について

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■FCC informationについて

参照 《パソコンで見るマニュアル（検索）：技術基準適合について》

■EU Conformity Statementについて

This product and - if applicable - the supplied accessories too are marked with "CE" and comply therefore with the applicable harmonized European standards listed under the Low Voltage Directive 2006/95/EC, the EMC Directive 2004/108/EC and/or R&TTE Directive 1999/5/EC.

Responsible for CE-marking:
TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany

Manufacturer:
Toshiba Corporation, 1-1 Shibaura 1-chome, Minato-ku, Tokyo, 105-8001, Japan

The complete official EU CE Declaration can be obtained on following internet page:
http://epps.toshiba-teg.com/

付録

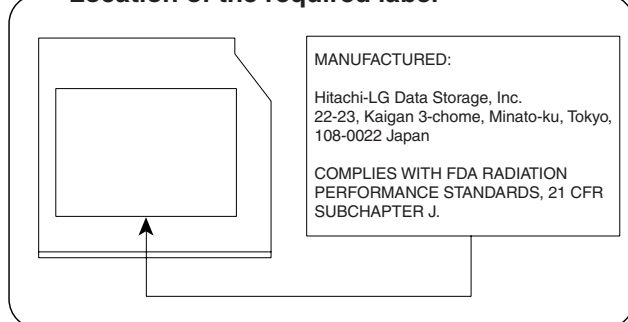
HITACHI LG DVDスーパーマルチドライブGSA-U20N
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825-1で“クラス１レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO！	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Panasonic DVDスーパーマルチドライブUJ862AB（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

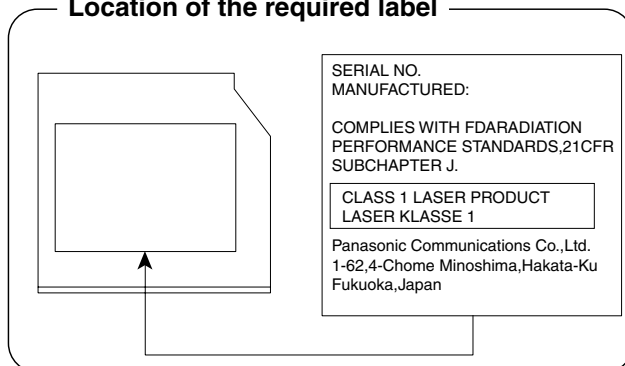
⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO！	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付録

4 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n draft2.0のすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類については、「2章 1 - 2 - 1 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

メモ

- 本製品に内蔵されているIEEE802.11nに準拠した無線LANモジュールは、リリースバージョンdraft2.0の仕様に基づいております。そのため、正式規格対応製品や他社のドラフト版対応製品とは互換性やすべての機能を保証するものではありません。
- 本製品と同等の構成を持った機器との通信を行う場合に、IEEE802.11n draft2.0準拠の通信を行うことが可能です。

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n draft2.0	5GHz（5150-5725MHz）
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n draft2.0	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n draft2.0	直交周波数分割多重方式（OFDM方式), 空間多重方式（MIMO方式）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お知らせ」を確認してください。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- 5GHz帯：5150〜5725MHz（IEEE802.11a、IEEE802.11n draft2.0の場合）

メモ

- 5GHz無線LANは屋外では使用できません。

	チャネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● 2.4GHz：2400～2497MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11n draft2.0の場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457＊1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1　購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

無線LANをインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

● インフラストラクチャモードで無線LAN接続する場合、モジュール側が自動的に無線LANアクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線LANアクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

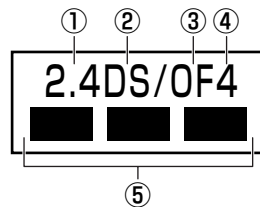
日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。

■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■ ■ ■ ：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、裏表紙を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、次の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■Intel a/b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：512AN_MMW
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080241003

■Atheros b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：AR5B91-X
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080273003

■Realtek b/g/nモジュールの場合

無線設備名 ：RTL8192E
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080483001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

付録

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、製品に応じて次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n draft2.0）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n draft2.0））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this The Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website
www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php./

●Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

●Taiwan

Article 12

Without permission granted by the DGT or NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

■Intel a/b/g/n モジュール

アイスランド	カナダ	スウェーデン	パナマ	ホンジュラス
アイルランド	韓国	スペイン	バミューダ	マラウイ
アメリカ合衆国	カンボジア	スロバキア	パラグアイ	マルタ
アラブ首長国連邦	キプロス	スロベニア	ハンガリー	マレーシア
イギリス	ギリシャ	タイ	フィリピン	南アフリカ
イタリア	キルギスタン	台湾	フィンランド	モナコ
インド	クロアチア	チェコ	プエルトリコ	モロッコ
インドネシア	グアテマラ	中国	ブラジル	モンテネグロ
ウルグアイ	クウェート	チリ	フランス	ヨルダン
エジプト	ケニア	デンマーク	ブルガリア	ラトビア
エストニア	コスタリカ	ドイツ	ベトナム	リトアニア
エルサルバドル	コロンビア	トルコ	ベルギー	リヒテンシュタイン
オーストラリア	サウジアラビア	日本	ポーランド	ルーマニア
オーストリア	ジャマイカ	ニューカレドニア	ボスニア･ヘルツェゴビナ	ルクセンブルク
オマーン	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア	レバノン
オランダ	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル	
カタール	スイス	バーレーン	香港	

（2009年2月現在）

- 802.11aおよび802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13，Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140，Ch149，Ch153，Ch157，Ch161，Ch165で使用できます。

■Atheros b/g/n モジュール

アイスランド	オーストラリア	スリランカ	ノルウェー	マルタ
アイルランド	オーストリア	スロバキア	バーレーン	マレーシア
アゼルバイジャン	オランダ	スロベニア	ハンガリー	南アフリカ
アメリカ合衆国	カナダ	セルビア	フィリピン	メキシコ
アラブ首長国連邦	韓国	台湾	フィンランド	モナコ
アルゼンチン	キプロス	チェコ	フランス	モンテネグロ
イギリス	ギリシャ	中国	ブルガリア	ヨルダン
イタリア	クロアチア	チリ	ベトナム	ラトビア
インド	コロンビア	デンマーク	ベネズエラ	リトアニア
インドネシア	サウジアラビア	ドイツ	ペルー	リヒテンシュタイン
ウルグアイ	シンガポール	トルコ	ベルギー	ルーマニア
エクアドル	スイス	日本	ポーランド	ルクセンブルク
エジプト	スウェーデン	ニューカレドニア	ボスニア･ヘルツェゴビナ	レバノン
エストニア	スペイン	ニュージーランド	ポルトガル	ロシア

（2009年2月現在）

- 802.11nモードでは、アドホック通信は使用できません。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのアドホック通信は、チャネル1～チャネル11で使用できます。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ通信は、チャネル1～チャネル13で使用できます。

付録

■Realtek b/g/n モジュール

アイスランド	カタール	スペイン	パプアニューギニア	ホンジュラス
アイルランド	カナダ	スロバキア	バミューダ	マルタ
アゼルバイジャン	韓国	スロベニア	パラグアイ	マレーシア
アメリカ合衆国	キプロス	セルビア	ハンガリー	南アフリカ
アラブ首長国連邦	ギリシャ	タイ	フィリピン	メキシコ
イギリス	キルギスタン	台湾	フィンランド	モナコ
イタリア	クロアチア	チェコ	ブラジル	モロッコ
インド	グアテマラ	中国	フランス	モンテネグロ
ウルグアイ	クウェート	チリ	ブルガリア	ヨルダン
エクアドル	ケニア	デンマーク	ベトナム	ラトビア
エジプト	コロンビア	ドイツ	ペルー	リトアニア
エストニア	サウジアラビア	トルコ	ベルギー	リヒテンシュタイン
エルサルバドル	ジャマイカ	日本	ポーランド	ルーマニア
オーストラリア	シンガポール	ニュージーランド	ボスニア･ヘルツェゴビナ	ルクセンブルク
オーストリア	ジンバブエ	ノルウェー	ボリビア	レバノン
オマーン	スイス	バーレーン	ポルトガル	
オランダ	スウェーデン	パナマ	香港	

（2009年2月現在）

- 802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

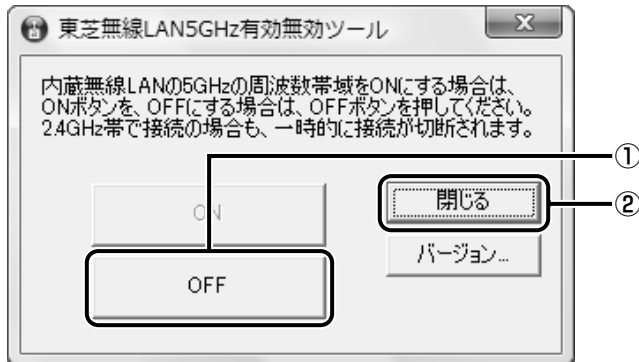
付録

8 「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」について

5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。
本製品を屋外に持ち出す場合には、「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」で5GHzの周波数帯域をOFFにしてください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［無線LAN5GHz有効無効ツール］をクリックする**

［東芝無線LAN5GHz有効無効ツール］画面が表示されます。

2 **［OFF］ボタンをクリックし①、［閉じる］ボタンをクリックする②**

5GHzの周波数帯域がOFFになります。

メモ

- 屋内で5GHzの周波数帯域を使用する場合は、手順 2 で［ON］ボタンをクリックし、5GHzの周波数帯域をONにしてください。

5 Bluetoothについて

＊Bluetoothモデルのみ

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力＊1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度＊1	－70dBm
	通信距離	見通し10m＊2
電源電圧		3.3V
消費電力		最大200mA

＊1 アンテナの効率は含まれません。
＊2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
本製品のBluetooth通信機能が使用できる国／地域については、「本節 6 使用できる国／地域について」を確認してください。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth® 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

■ステッカー

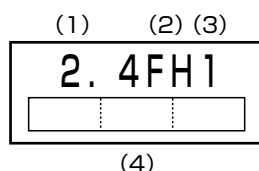
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

付録

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

(1) 2.4　：2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
(2) FH　：変調方式がFH-SS 方式であることを示す。
(3) 1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
(4) □□□　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、裏表紙を参照してください。

4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。
次のいずれかが組み込まれています。

無線設備名 ： EYTFEBS
財団法人電気通信端末機器審査協会
認証番号 ： D07-0120003

または

無線設備名 ： EYTFXCS
財団法人電気通信端末機器審査協会
認証番号 ： D07-0040001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お知らせ

■無線製品の相互運用性

Bluetooth® 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するあらゆるBluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.2.1+EDR
- Bluetooth Special interest Groupの定義するBluetooth® ワイヤレステクノロジのLogo認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

（1）本製品はBluetooth® Version2.1+EDR仕様に準拠しております。
Bluetooth® Version1.0B 仕様のBluetooth®ワイヤレステクノロジを用いた機器とは互換性がありません。

（2）2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

（3）Bluetooth®とWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

■健康への影響

Bluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Bluetooth® 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth® ワイヤレステクノロジの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth® ワイヤレステクノロジを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA-Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a articular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth® Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Bluetooth® Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth® Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/qwh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php.

●Taiwan

Article 12　Without permission granted by the DGT or NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14　The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

6 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アイスランド	オランダ	スロバキア	ノルウェー	香港
アイルランド	カナダ	スロベニア	ハンガリー	マルタ
アメリカ合衆国	韓国	チェコ	フィンランド	ラトビア
イギリス	キプロス	中国	フランス	リトアニア
イタリア	ギリシャ	デンマーク	ブルガリア	リヒテンシュタイン
エストニア	スイス	ドイツ	ベルギー	ルクセンブルク
オーストラリア	スウェーデン	日本	ポーランド	
オーストリア	スペイン	ニュージーランド	ポルトガル	

（2009年2月現在）

付録

さくいん

シ

ス

セ

ソ

タ

ツ

テ

ト

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

ム

メ

モ

ユ

リ

ワ

PRINTED WITH SOYINK™ この取扱説明書は植物性大豆油インキを使用しております。
この取扱説明書は再生紙を使用しております。

東芝PC総合情報サイト

http://dynabook.com/

東芝PCあんしんサポート

技術的なご質問、お問い合わせ、修理のご依頼をお受けいたします。

全国共通電話番号 **0120-97-1048** (通話料·電話サポート料無料)

おかけいただくと、アナウンスが流れます。
アナウンスに従ってご希望の窓口に該当する番号をプッシュしてください。

電話番号は、お間違えのないよう、ご確認の上おかけください。
海外からの電話、携帯電話、PHSまたは直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。
ご相談の内容により、別のサポート窓口をご案内する場合がございます。

技術相談窓口受付時間：9：00～19：00（年中無休）
修理相談窓口受付時間：9：00～22：00（年末年始12/31～1/3を除く）

▼インターネットで修理のお申し込み
http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm

お問い合わせの詳細につきましては、『東芝PCサポートのご案内』をご参照ください。

・本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。
・本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
・落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

株式会社 東芝 PC&ネットワーク社

PC第一事業部 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1

GX1C000BYZ10
Printed in China